

誰もが「おめでとう」と誕生を祝福され

えにし白書 2016

えにし実践報告書



滋賀の縁創造実践センター

「ありがとう」と看取られる地域づくり

えにし白書2016

滋賀の縁創造実践センター

目次

— えにし白書2016の発行によせて	01
— 滋賀の縁創造実践センター 設立趣意書	02
— 滋賀の縁創造実践センター 会員名簿（平成29年3月31日現在）	03

縁・共生の場づくり

01 滋賀の縁認証事業	04
02 遊べる・学べる淡海子ども食堂	06

しくみづくり

03 社会福祉施設を利用した子どもの夜の居場所 フリースペース	10
04 県との公私協働事業 子どもたちの社会への架け橋づくり事業	14
05 ひきこもりがちな人と家族の支援	18
06 小さな働く場づくり 傍楽(はたらく)体験	20
07 医療的ケアの必要な重度障害児者の入浴支援	22
08 縁の施策提案	24
09 津久井やまゆり園事件を受けて「今こそ、この子らを世の光に」	25
10 ひとり親家庭の子育て実態調査	26
11 えにしの日(3.11)	28

ひとづくり・つながりづくり

12 多職種連携のチームづくりを学ぶ 滋賀の縁塾	30
13 多職種連携のチームづくりを学ぶ 事例検討多職種サロン	31
14 ふくしの仕事と楽しく生きる ふく・楽café～縁～	32
15 福こい♡縁結び	33
16 縁・支え合いの県民運動	34
17 広報活動	35

縁の仲間

18 縁の志を共有し実践する仲間	36
— 滋賀の縁創造実践センター 2016年度 えにし活動実践マップ	45
— 縁5年間の目標と実践（平成29年3月31日現在）	46
— 滋賀の縁創造実践センター 平成28年度の歩み	48

えにし白書2016の発行によせて

子ども食堂に取り組んでおられる方がこんな話をされました。「子ども食堂の受付で子どもがぎゅっと握った手を差し出した。その手のなかに100円玉はなかった。1食100円が皆で決めた値段やけど、私らはこの子の手をぎゅっと握って、『いっぱい食べや』って言ってやりたいと話合ったんや」。あたたかいまなざしに満ちた子ども食堂という活動が子どもの可能性を育む場となり、地域住民の連帯を育む場となっていることを実感するいくつものエピソードが県内各地から届いた一年でした。

ひきこもりの人と家族支援モデル事業の運営会議では、民生委員・児童委員の代表として参加されているお1人が、この事業の事務局を担っている事業所のスタッフに、「あなた方は私たちに、お礼やすみませんという言葉は言わなくていいんです。私たち民生委員は、自分たちがやるべきことだという気持ちで主体的に活動に参加しているんですよ」と穏やかにおっしゃいました。

「自覚者が責任者」という滋賀の福祉の志は、このように暮らしの場で人びとの福祉を見つめ、実践する方たちのなかに深く息づいているということに心が湧き、同じ福祉関係者として叱咤激励されます。

滋賀の縁創造実践センターは、平成26年9月に5年間と期限を切って活動を開始し、早くも折り返し地点を過ぎました。民間福祉の志、糸賀一雄の実践の姿勢に共感する会員がより添い合い、生きづらさを抱えて日々暮らしている人の現実から目をそらさず、できる範囲でできることを一つでも具体化しようと取り組んでまいりました。そのなかで、この取り組みはニーズに対応したものか、システムとして運用できるのかなどの見直しを何度も行い、いくつかの取り組みは公私協働による事業となり、普遍的で継続的なシステムづくりの段階にあります。

平成29年度は、いよいよ縁センターが生み出した実践がどれだけの効果をあげたのか、成果物は何かということについて客観的な評価をいただき、同時に自己評価を行い、「縁センターの後」を展望していく年度になります。だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られる、そういう地域をつくるという目標をしっかりと掲げ、福祉関係者として気づいている課題に向き合い、対応する制度がないなら自分たちで創り、実践し、普遍化に向け働きかけるといった民間福祉の原点を自覚し、滋賀の福祉を耕しましょう。

共に実践する仲間がいるのはうれしく、楽しいことです。大いに語りあい、皆で知恵と力を合わせ、無縁社会を打ち破っていきましょう。

滋賀の縁創造実践センター 設立趣意書

〔設立趣意〕

今、滋賀の福祉にかかわる私たちには、糸賀一雄らが福祉や社会の未来のためにつないでくれた“バトン”があります。バトンにつめられた思想と実践と希望。私たちは、民間福祉の実践者として、「自覚者が責任者」との思いをあらためて共有・共感しました。

私たちの問題意識は、2025年問題といわれる少子高齢化への不安とともに、重なり合う生活課題を抱えながら支援につながらない人々、制度の狭間にあるため支援が得られない人々等、社会的孤立や生活困窮の問題が広がっていることです。私たちは、この問題を見過さず、滋賀に暮らす一人ひとり、だれもが、「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られるまで、ふだんのくらしのしあわせ(ふくし)がもてる社会を創りたいと考えます。

このため、民間福祉関係者が枠を超えてつながり、地域住民とともに社会とつながっていない人々の縁を紡ぎなおし、生き生きと地域のなかで暮らせるよう支援するしくみと実践を県下にくまなくつくっていくための推進母体として、「滋賀の縁創造実践センター」を設立します。

このセンターの取り組みは、いわば福祉の新しい手法へのチャレンジであるとともに、滋賀の新しい福祉文化を創り、発信していくものであります。多くの方々のご賛同、ご参画をお願い申し上げます。

〔センターがめざすもの〕

- ① トータルサポートの福祉システム化
- ② 制度の充実と制度外サービスへの取り組み
- ③ 縁(えにし)・支えあいの県民運動

〔活動内容〕

本センターは、上記の設立趣意を踏まえ、次の活動を行います。

- ① 制度で対応ができないニーズに対する支援の開発と実践
- ② 県内各地で相談・生活支援に取り組む支援者の支援
- ③ 県内各地域におけるトータルサポートのための協働のしくみづくり・トータルサポートの好事例の普遍化

滋賀の縁創造実践センター 会員名簿 (平成29年3月31日現在)

団体会員

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会、一般財団法人 滋賀県老人クラブ連合会、一般社団法人 滋賀県介護福祉士会、一般社団法人 滋賀県保育協議会、公益財団法人 滋賀県身体障害者福祉協会、公益社団法人 滋賀県社会福祉士会、公益社団法人 滋賀県手をつなぐ育成会、滋賀県介護サービス事業者協議会連合会、滋賀県介護支援専門員連絡協議会、滋賀県里親連合会、滋賀県児童福祉入所施設協議会、滋賀県社会福祉法人経営者協議会、滋賀県障害者自立支援協議会、滋賀県民生委員児童委員協議会連合会、滋賀県老人福祉施設協議会、滋賀県市町社会福祉協議会会長会、社会福祉法人 滋賀県視覚障害者福祉協会、社会福祉法人 滋賀県母子福祉のぞみ会、医療福祉・在宅取りの地域創造会議、レイカディアえにしの会、滋賀県救護施設協議会、淡海フィランソロピーネット

法人会員

大津	(福)青桐会、(福)穴太福祉会、(福)近江会、(福)近江笑生会、(福)近江神宮仁愛会、(福)大石福祉会、(福)大津市社会福祉協議会、(福)大津市社会福祉事業団、(福)大津ひかり福祉会、(福)恩徳寺会、(福)華頂会、(福)唐崎福祉会、(福)唐橋福祉会、(福)共生シンフォニー、(福)桐生会、(福)江育会、(福)幸寿会、(福)好和会、(福)湖青福祉会、(福)小鳩会、(福)滋賀同仁会、(福)志賀福祉会、(福)真盛園、(福)夕陽会、(福)石光山会、(福)禅心福祉会、(福)せんだん二葉会、(福)つばさ会、(福)春風会、(福)琵琶湖愛輪会、(福)美輪湖の家大津、(福)楽樹
湖南	(非)ものわすれカフェの仲間たち、(福)あけぼの会、(福)永山会、(福)恩賜財団済生会、(福)湖南会、(福)彩陽会、(福)しあわせ会、(福)慈恵会、(福)志津保育園、(福)すぎのこ保育園、(福)聖優会、(福)パレット・ミル、(福)ひかり会、(福)びわこ学園、(福)みのり、(福)守山市社会福祉協議会、(福)守山向日葵会、(福)野洲慈恵会、(福)野洲市社会福祉協議会、(福)友愛、(福)よつば会、(福)栗東市社会福祉協議会、(福)良友会、(非)草津市中心身障害児者連絡協議会
甲賀	(福)あいの土山福祉会、(福)あかつき会、(福)近江ちいろば会、(福)近江和順会、(福)大木会、(福)おさなご会、(福)甲賀会、(福)甲賀学園、(福)甲賀市社会福祉協議会、(福)甲南会、(福)湖南市社会福祉協議会、(福)さわらび福祉会、(福)しがらき会、(福)信楽福祉会、(福)天地会、(福)八起会、(福)ひまわり会、(非)NPOワイワイあぼレクラブ
東近江	(福)阿育会、(福)一善会、(福)近江兄弟社地塩会、(福)近江八幡市社会福祉協議会、(福)グロー(GLOW)～生きることが光になる～、(福)恵泉会、(福)湖東会、(福)サルビア会、(福)慈照会、(福)至徳会、(福)真寿会、(福)布引会、(福)八宮会、(福)八幸会、(福)万松会、(福)東近江市社会福祉協議会、(福)日野町社会福祉協議会、(福)日野友愛会、(福)ほのぼの会、(福)めぐみ会、(福)雪野会、(福)竜王町社会福祉協議会、(福)六心会
湖東	(福)愛荘町社会福祉協議会、(福)愛悠ものの会、(福)あすなろ福祉会、(福)近江ふるさと会、(福)甲良町社会福祉協議会、(福)ことぶき会、(福)さざなみ会、(福)さざなみ学園、(福)椎の実会、(福)慈水会、(福)白露会、(福)善行会、(福)大樹会、(福)多賀町社会福祉協議会、(福)稲朋会、(福)豊郷町社会福祉協議会、(福)ノゾミ会、(福)彦根市社会福祉協議会、(福)ふたば会、(福)みづほ会、(福)三つ和会、(福)若葉会
湖北	(福)カトリック京都司教区カリタス会、(福)公悠会、(福)湖北真幸会、(福)湖北報恩会、(福)青祥会、(福)尊徳会、(福)達真会、(福)長浜市社会福祉協議会、(福)ははのくに、(福)米原市社会福祉協議会、(福)まんてん
高島	(福)大阪自彊館、(福)光養会、(福)新旭みのり会、(福)たかしま会、(福)高島市社会福祉協議会、(福)虹の会、(福)はこぶね会、(福)ゆたか会
県域	(福)滋賀県社会福祉協議会

個人会員

上野谷 加代子、故 山辺 朗子、上西 祥之、廣田 敬史、大谷 雅代、宮本 育子、前阪 良憲、疋田 由香里、牛丸 昇子、上村 文子、尾畑 聡英、山元 浩美、北居 理恵、松本 敦三、森本 美絵、奥田 与嗣男、西村 孝実、中根 超信、村上 浩世、平井 佑希

賛助会員

元三フード株式会社、総本山 西教寺、株式会社なんてん共働サービス、大津市仏教会、滋賀県仏教会、一般社団法人されいや総研 滋賀中央センター、株式会社彩生舎

※(福)…社会福祉法人 (非)…特定非営利活動法人

01 滋賀の縁認証事業

目的 ともに生き、支え合う
滋賀の福祉モデルを共有

滋賀の縁認証事業は、縁センターがめざす「現行の制度で解決できない生活課題、地域の福祉課題に気付いた人たちが、実践者として、問題解決のために協働して具体的な取り組みをしている活動」を、滋賀の福祉実践モデルとして県、縁センター、滋賀県社会福祉協議会の3者が認証するものです。

一人ひとりが大事にされ、社会的孤立をつくらない共生社会をめざした活動や、現行制度の枠にとらわれず、新たなつながりや視点から課題解決に取り組む活動を県内にひろげることにより、共生社会を実現していくことを目的としています。

実践 9団体が認証されました！

- 平成28年10月25日
第2回 滋賀県社会福祉大会にて認証プレート贈呈
- 平成29年1月24日
第3回 認証式 … 9団体を認証、4団体を奨励

【認証団体】

第5号 社会福祉法人びわこ学園

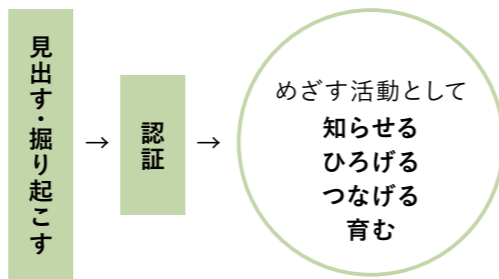
在宅重症心身障害児・者の地域ケアの取り組み

重症心身障害児・者の在宅生活を可能にする地域ケアの拠点として1970年代から地域における療育教室づくり、通園事業の研究に取り組み、その成果が「滋賀県重症児通園モデル事業」(県単独事業)につながりました。通園事業は、県が国に先駆けて施策化し、重症児の通所は全県域にひろがり、現在も重症児者と家族そして専門職の支えとなっています。

第6号 社会福祉法人グロー (GLOW) ～生きる事が光になる～ サービスセンターれがーと

利用者主体の地域生活支援の実践

障害のある人の地域生活を支えるための公的な制度がない中で、平成6年のころから「必要な時、必要なサービスを」をキャッチフレーズに私的契約による「心身障害児・者ホームヘルプサービス事業」を開始。そのサービスを軸に、デイサービス、ナイトケアを柔軟に組み合わせて提供する公的なサービスモデルはその後、県から国の公的な在宅福祉サービス事業となり、現在に至っています。



第7号 社会福祉法人グロー (GLOW) ～生きる事が光になる～ ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

障害のある人の造形活動支援



NO-MAは、「障害者の作品を常設できる空間・建物を」というニーズをいち早くとらえ、障害のある人の作品と現代アーティスト等の作品を分け隔てなく展示するために全国に先駆けて開設されました。「障害者と健常者」「福祉と文化との交差」「アートとまちづくりの協働」というボーダー(境界)を超えていく先駆的な実践を試みています。

第8号 社会福祉法人共生シンフォニー

ひとり親、ひきこもりの人、虐待を受けて悩んでいる人たちへの就労の場の提供

障害のある人もない人も共に「地域で当たり前暮らそう」という思いを実現するため、1986年に障害者小規模作業所を設立して以降、「その時困っている人」を見逃さず、福祉サービスではなく従業員として受け入れ、働き暮らすことを支えています。

第9号 株式会社なんてん共働サービス

認知症高齢者ケアの場における知的障害者の就労



障害があっても、認知症になっても、住み慣れた地域のなかでその人ならではの「働き」を生かし合える事業を展開しています。まちのなかにある認知症高齢者のケアの場「共生舎なんてん」では、平成12年の開所時から知的障害のある人がスタッフとして働き、その人「ならではの」働きがケアの場にもたらす力を社会に伝える実践となりました。この実践は福祉サービスの利用者が支援者として働くモデルとなり、県の資格制度(いきいき生活支援員認証制度)になっています。

障害があっても、認知症になっても、住み慣れた地域のなかでその人ならではの「働き」を生かし合える事業を展開しています。まちのなかにある認知症高齢者のケアの場「共生舎なんてん」では、平成12年の開所時から知的障害のある人がスタッフとして働き、その人「ならではの」働きがケアの場にもたらす力を社会に伝える実践となりました。この実践は福祉サービスの利用者が支援者として働くモデルとなり、県の資格制度(いきいき生活支援員認証制度)になっています。

第10号 大野木長寿村まちづくり会社

地域住民主導による介護予防・日常生活支援総合事業の取り組み

(ビジネスの手法を取り入れた持続可能なまちづくり)



高齢者の地域生活支援や居場所づくり(通所サービスB等)、出番づくり、さらに孤立しがちな人への訪問活動、子ども食堂の運営等を過疎・高齢化がすすみつつある大野木の将来を見据えて地域に根付いた活動を展開しています。活動の利用料や食堂や特産品の売り上げの7割が社員(活動者)に入り、残り3割が会社の運営費となり、活動に有償性、ビジネスの手法を入れることにより、持続可能なしくみを構築しています。

【奨励】

山中比叡平学区社会福祉協議会

学区社協における居場所と助け合いのコミュニティサービス活動

毎週金曜日に開催されている金曜カフェは住民全般を対象に開かれた居場所として、乳幼児を連れた若い母親、比叡平小学校の生徒や先生、中高年、高齢者らが毎回50名ほど参加しています。日頃の福祉活動から把握した参加者のニーズに合わせた取り組みを進めています。

特定非営利活動法人宅老所 心

なじみの地域で、困りごとに寄り添い、支え合う活動

宅老所心では、地域の中でほっとできる場所づくり、地域の中のちょっとした困りごとを解決するためのお助け隊活動など、地域の方の「ふれあいの居場所」として社会的孤立をつくらぬ地域づくりを実践しています。

第11号 レイカディア大学同窓会・レイカディア大学サポート隊

地域貢献活動と生涯現役社会づくりの実践

レイカディア大学同窓会は、長年にわたりレイカディア大学卒業生が地域のリーダーとして積極的に地域貢献活動へのサポートや活性化のための事業に取り組んできました。その後結成されたサポート隊、さらにはレイカディアえにしのとともに、卒業生の活動の幅と仲間をひろげ、福祉、文化、環境など暮らしのさまざまなところでニーズをキャッチし、グループを組織しながら活動を展開しています。

第12号 淡海フィランソロピーネット

社会福祉をテーマとした企業の社会貢献活動

県内を中心とする企業および関係機関、団体との連携を図り、企業や団体の社会貢献活動に関する普及、啓発、情報交換、交流等を行い、企業や団体が地域社会にとって魅力的で効果的な活動を推進することを目的に都道府県レベルでは全国初のネットワークとして設立。20年間、全国各地で発生する災害の支援活動や障害者施設との協働によるペットボトルキャップリサイクル事業など、1社だけではできないことをネットワークの力を生かした活動として展開しています。

第13号 滋賀県自助具製作グループ連絡協議会

専門職とボランティアの連携による自助具の普及

平成9年の福祉用具センター開設とともに、専門職とボランティアが福祉圏域ごとに集まり、自分の持っているノウハウや時間を活かし、困っている人に役立つ用具をつくらうと自助具工場の活動が始まりました。自助具工房連絡会は、県内の自助具工場の連携・連絡調整を図るために平成12年10月1日に設立され、現在も継続されています。

八日市に冒険遊び場をつくる会

子どもたちに必要な“サンマ”を取り戻す活動

八日市冒険遊び場は、県内の冒険遊び場活動の先駆けとして、子どもの成長、自立への道のりに欠かせない“3つの間”(①空間②時間③仲間)づくりに取り組み、本県の「冒険遊び場」づくり普及のための人材育成やネットワークづくりに貢献しています。

枝折おたすけ隊

団塊の世代を中心とした住民主体による多様なサービスモデル

「おたすけ隊」では、1回あたり500円に対応できるようボランティア体制を整えて、除雪、買物・通院、掃除(草刈等)などの生活支援サービスを提供するなど、隣近所での助け合いを尊重しながら団塊の世代の住民らによる新たな支え合いサービスのモデルとなっています。

縁・共生の場づくり

しくみづくり

ひとり親、ひきこもり、つながりづくり

縁の仲間

02 遊べる・学べる淡海子ども食堂

目的 地域で子どもの笑顔を育む!

「遊べる・学べる淡海子ども食堂(以下、淡海子ども食堂)」は、「ごはん」を通じて地域ぐるみで子どもを見守り育てていく、垣根のない居場所です。食堂をきっかけにさまざまな世代がつながり、困っている人を放っておかないあたたかいまなざしがあふれる地域づくりをめざしています。

みんなで囲むあたたかいごはんや勉強・遊びを通して、子どもたちが地域のなかで大事にされて「ほっ」と安心できる食堂づくりを、モデル事業として推進しています。



▲きのもと子ども食堂

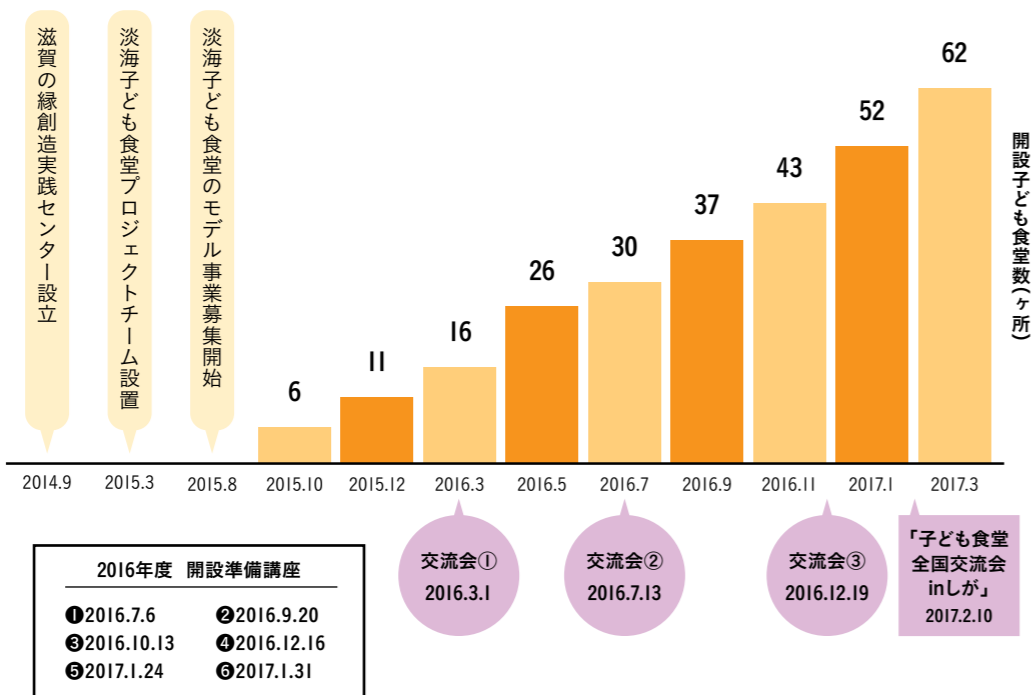


▲ほのちゃん食堂

実践 淡海子ども食堂の広がり

淡海子ども食堂は平成27年8月からモデル事業の募集を開始し、平成29年3月で開設数は62ヶ所となりました。それぞれの食堂の実施主体は、ボランティアグループや任意団体、学区(地区)社協やNPO法人、社会福祉法人、

会社組織など多岐にわたっています。開催頻度は月1回程度が最も多く(38ヶ所)、日程は土日の昼間(31ヶ所)・平日の夜(22ヶ所)を主に、各食堂で工夫をしながら無理のない範囲で取り組まれています。



episode

実施団体・活動者より

最初はなかなか輪に入れずにいた子ども、回を重ねるにつれて学年を超えて一緒に遊べるようになってきました。

すぐに遊び食べをしたり、好き嫌いが偏ってしまっていた子が、子ども食堂に来続ける中で「今日は食べきれなくて残ってしまった、ごめん」と言ってくれるようになったのが嬉しかったです。

1つ1つの食堂は月に1回でも、地域にいくつもの食堂ができれば、子どもたちにとっては行く場所がたくさんできる。小さな一歩を増やしていきたいなあ。

地域の子どもが、私たちのご飯を食べておっきくなるんやなあと思うとうれしい。

地域の方が、抽選会で当選された商品券を「食堂で使って」と届けてくださいました。子ども食堂を始めて、人のあたたかさに「じーん」とくることが多々あります。素敵なスタッフやボランティアさん、かわいい子ども達にも出逢え、そしてそこからまた新しい出逢いがある。すべてのことにありがとうございます。

滋賀教区浄土宗青年会のみなさんが、「近江米一升運動」で集めたお米500kgを子ども食堂に寄付して下さいました。ありがたいお申し出に子ども食堂をされているみなさんから感謝の声がたくさん届きました。

子ども食堂に来るのはどの子どもも大事な地域の子。しんどい子ども・寂しい思いをしている子ども、と対象を限定するのではなく、どの子にも光をあてられる場所にしたい。

寄付でいただいた食材を、近くの食堂さんと分け合ったり、情報交換したりできるように、もっと地域の子と食堂とつながっていききたいです。

開設から2年が経ち、課題も見えてきたが、それもここまで続けてきたからこそ、これからも頑張ろうという意志の表れ。子どもたちとともに前進を続けたい。

この食堂がなかったらきっと出会うこともなかった世代・職業の皆がここで食卓を囲んで笑っている姿に、心がほっこりあたたかくなります。

継続していくために、どうやって財源を確保していくかが心配です。せっかくできた子どもの居場所なので、助成金が終わってやめることにならないよう、地域のなかで考えていきたい。

子ども食堂に来てほしいと思う家庭に、情報を届ける工夫をしていきたいなあ。

スタッフ2人が体調不良でどうしよう?と不安だった日、レイカディア大学からボランティアさんが3人来てくれました。すごく頑張って下さって、とても助かりました。

登下校を見守る民生委員・児童委員さんから、子どもたちが「今日は子ども食堂の日やな!」と話していたと嬉しい報告。学校でも担任の先生や校長先生に「子ども食堂来て〜」と声をかけてくれたことで先生方もものぞいてくれるようになり、食堂をきっかけに大人同士のつながりも生まれています。



▲だんらんの家 子ども食堂



▲出会い食堂♡よっといで〜♡

縁・共生の場づくり

しくみづくり

ひとつづくり・つながりづくり

縁の仲間

淡海子ども食堂開設準備講座

「これから子ども食堂を始めたい」「子ども食堂の話を一度聞いてみたい」と思う皆さんに淡海子ども食堂が大切にしていることや運営の工夫について知っていただく機会として、開設準備講座が始まりました。

6会場で開催し、延べ259名が参加。実際に実践されている方から子ども食堂の開設までの動きややりがいについて話を聞くことで疑問の解決や不安の解消ができた、ここから15食堂46名が新たな食堂の開設につながりました。



★第1弾(湖東会場)

開催日:平成28年7月6日(水) 参加者:71名
実践報告:「かめの子ども食堂」(NPO法人Links)

★第2弾(甲賀会場)

開催日:平成28年9月20日(火) 参加者:51名
実践報告:「にぎわい広場」(石部南学区まちづくり協議会)

★第3弾(湖北会場)

開催日:平成28年10月13日(木) 参加者:34名
実践報告:「湖北子ども食堂“リエゾン(Liaison)”」
(任意団体リエゾン)
「ながはまこども食堂」(社会福祉法人グロー)

★第4弾(大津会場)

開催日:平成28年12月16日(金) 参加者:39名
実践報告:「晴嵐みんなの食堂」(NPO法人CASN)
「田上っ子食堂」
(田上学区青少年育成学区民会議)

★第5弾(湖南会場)

開催日:平成29年1月24日(火) 参加者:25名
実践報告:「出会い食堂♥よっといで〜♥」
(若葉町自治会・ピアンネ)
「ながはまこども食堂」(社会福祉法人グロー)

★第6弾(東近江会場)

開催日:平成29年1月31日(火) 参加者:39名
実践報告:「八日市おかえり食堂」(おてんとさん)
「はちまん子ども食堂」
(八幡学区社会福祉協議会)

延べ259名が参加し、
15食堂の開設につながりました!

淡海子ども食堂交流会

淡海子ども食堂の実施団体同士の交流会を2回実施しました。名刺カード交換や、各食堂の1分間紹介、食堂をするなかでの課題や工夫についての情報交換の他、2回目の交流会では県からの衛生講座も実施し、衛生面で注意することを確認。「想いの強い方ばかりでとても刺激になり、パワーを頂いた」「子どもがもっと主役になるように。大切なことを再確認できた」等の声がありました。



★第1回

開催日:平成28年7月13日(水)
参加者:19食堂32名

★第2回

開催日:平成28年12月19日(月)
参加者:17食堂52名



地域に子ども食堂をひろげよう!研修会

子ども食堂の立ち上げ支援に携わる社協職員向けに研修会を実施し、社協職員に求められる関わりなどについて学びました。

開催日:平成28年8月22日(月)
参加者:10名
講師:幸重社会福祉士事務所 代表 幸重 忠孝さん
栗東市社会福祉協議会 業務主任 本間 由樹さん



この子らを世の光に〜

子ども食堂全国交流会inしが

全国の子ども食堂を実施している人、子ども食堂を応援している人、関心を持っている人が集う全国交流会を開催し、約570名が参加。(「第21回アメニティーフォーラム」の特別プログラムとして開催)

「みんな社会に育てられてきた。昔と同じではいけないが、今の時代に合った新たなかたちをつくっていこう」「落ち込むこともあるけれど、得られる喜びはそれ以上。自分たちが楽しまないと続かない」「みんながお互いに胸の奥に抱えている気持ちを理解しあえるような社会にしたい」等、熱いメッセージが交わされました。

開催日:平成29年2月10日(金)
場所:びわ湖大津プリンスホテル
参加者:約570名



子ども食堂全国交流会 in しが プログラム

平成29年2月10日(金) 10:00~17:00(受付9:15~)

10:00~11:40	オープニングトーク	「この子らを世の光に」と「子ども食堂」 辻哲夫さん(糸賀一雄記念財団理事長/東京大学特任教授) 聞き手:上野谷加代子さん(同志社大学教授) あさやけ子ども食堂 本日オープン! 山田和夫さん(要町あさやけ子ども食堂店主) 聞き手:谷口郁美(滋賀県社会福祉協議会事務局次長 滋賀の緑創造実践センター所長)
11:40~12:10	昼食・休憩	
12:10~13:10	アメニティーフォーラムとの共通プログラム 人口減少の日本社会・新しい価値を何処に求めるのか	
13:30~15:00	分科会①	分科会②
	第1部 地域が変わる 地域を変える 子どもの光 重江良樹さん(「さとにきたらええやん」監督) ×金澤満さん・石田幸代さん(近江八幡市「むさっ子食堂」) ×湯浅誠さん(法政大学教授) ×川又竹男さん(厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課長)	子ども食堂の魅力を「物語」で伝えよう! 「子ども食堂に集まる人」に注目したワークショップ形式によるパネルシアターづくりを行います。ワークを通して子ども食堂の魅力を再発見しよう。
15:15~16:45	第2部 ひろがれ! 子どもの笑顔を育む話★和★輪	コーディネーター 幸重忠孝さん (こどもソーシャルワークセンター代表)
	谷口久美子さん(大津市「晴嵐みんなの食堂」) ×田中裕子さん(長浜市「こどもの居場所“まんま”」) ×高山信雄さん(おてらおやつクラブ) ×藤岡いづみさん(野菜ソムリエプロ) ×山田容さん(龍谷大学准教授)	~16:00
16:50~17:00	滋賀からのメッセージ	



★子ども大交流会も開催!
「レイカディアエにしの会」によるクラフト体験コーナーやレクリエーションも実施。近隣の子どもも参加し、わくわく楽しいひとときを過ごしました。

子ども食堂の一覧はP42へ

仲間についてはP36へ

縁・共生の場づくり
しくみづくり
ひとづくり・つながりづくり
縁の仲間

03 社会福祉施設を利用した子どもの夜の居場所 フリースペース

目的 「何かあったらここにおいで」
地域の施設が子どもの居場所に！

地域のなかには、さまざまな事情から学校に行きにくくなっていたり、家庭のなかに安らぎがなかったり、また子どもらしく大人に甘えることができなかつたりといった状況にある子どもたちがいます。こうしたさびしさやしんどさを抱えている子どもたちを見守ってくださる地域の方たち、関係機関の方たちからは、地域で子どもを支える場がもっとも必要という課題提起がありました。フリースペースは、24時間人がいて、あたたかいご飯があって、お風呂がある地域の社会福祉施設を拠点に、さびしさやしんどさを抱えている子どもが、安心して信頼できる大人とのびのび過ごせる夜の居場所です。

県教育委員会が市町に配置したスクールソーシャルワーカーや子ども・家庭にかかわる専門職がフリースペースのつなぎ役となり、保護者や子ども支援にかかわる関係機関と利用の調整を図ります。フリースペースにつながった子どもは、週に1回夕方から夜の時間を地域のボランティア等の大人と1対1のかかわりの中で過ごします。ボランティアでは対応が難しく、個別のなかかわりが必要な場合は、子どもとかかわるワーカーが対応します。子どもの背景にある家庭の困りごとやボランティアの発



掘、呼びかけは地元の社協や行政と連携するなど、困っている子どもを真ん中において、高齢や障害等の社会福祉施設、スクールソーシャルワーカー、地域のボランティア、社会福祉協議会、学校、教育・福祉行政等がひとつの運営チームをつくり実践しています。

障害のある人を支える地域づくり

中高年障害者の休日の居場所づくり ～滋賀県手をつなぐ育成会との協働～

知的障害のある人は、加齢による身体への影響が他の人よりも早く出る傾向があり、加齢に伴い毎日作業所に通所することがしんどくなることがあります。自宅で生活している方もグループホームで生活している方も外出することが加齢に伴い負担が大きくなり、作業所が休みの日には外に出ることなく一日を終えることが多い状況があるという課題提起が、滋賀県手をつなぐ育成会からありました。

そこで、身近な地域にある高齢者施設に週1回程度、休みの日に「ほっ」とゆっくり過ごせる居場所づくりについて滋賀県手をつなぐ育成会とともに小委員会を検討してきました。

平成28年度はまず施設で夏祭り等のイベントを開催する際に近くのグループホームの方が参加するという形で、地域の方、施設の職員とつながる場づくりを始めました。

意向調査の実施

滋賀県老人福祉施設協議会会員ならびに滋賀県介護サービス事業者協議会連合会会員を対象に、「高齢者施設を活用した「中高年障害者の居場所事業(高齢者施設体験利用事業)」に関する意向調査」を実施し、24施設から回答がありました。

特別養護老人ホームカーサ月の輪での体験

まずは休日の楽しみづくりや施設になじんでもらうことから始めようと、特別養護老人ホームカーサ月の輪で地域の子どものたちが集まる場として開催した「カーサdeカレーづくり&遊ぶ」(8月)と「カーサdeクリスマス」(12月)に、近隣のグループホームから2名の利用者が参加。子どもや施設職員、ボランティアの方とふれあいました。当日、グループホームから同行された滋賀県手をつなぐ育成会の崎山理事長は「休みの日に出かけるところがあるということが大事。地域の方とつながることで孤立を防ぐことができる」と話されました。



実践

新たなフリースペースの開設

昨年度から実施していた4市6施設に加え、新たに1施設(高島市)で開設されました。

実施主体の移行

フリースペースの実施の流れ、動きがそれぞれの市の中に見えるよう、大津市、高島市において実施主体を縁センターから市社協に移行しました。

平成28年度の大津市、高島市(1月～)の実施体制図は下記のとおりです。

フリースペースの実施を通して 見えてきたこと、 平成28年度からの工夫

学校と連携・調整する ワーカーの役割

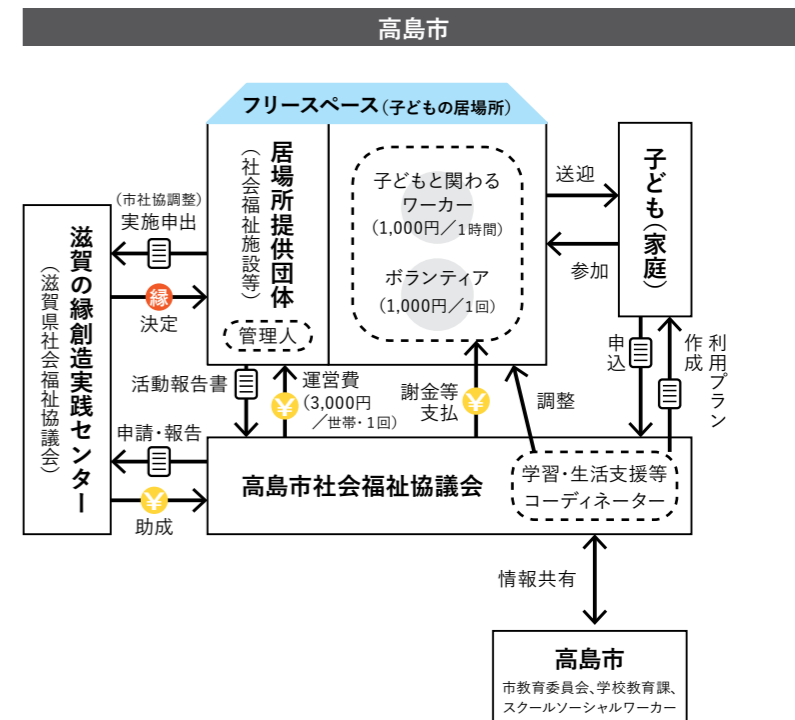
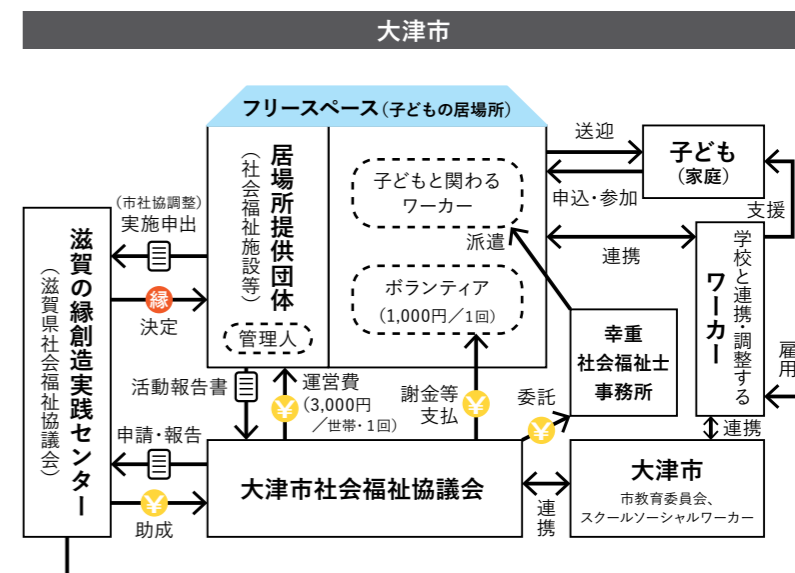
フリースペースでの子どもの様子を学校や家庭、関係機関と共有し、子どもにとってより良い環境になるよう調整する機能が大切であり、その役割を担う人(学校と連携・調整するワーカー)が必要であるとわかりました。同時に、フリースペース利用による子どもの変化を、学校と連携・調整するワーカーが現場にフィードバックし、管理人や現場スタッフのやりがいにつなげることも重要です。

施設の関わり

子どもたちにとって、毎週訪れる施設は大切な居場所となっています。この事業を継続するために、施設の役割について検討をはじめました。

ボランティアのかかわり

ボランティアの方たちが、子どもと関わる中での悩みについて、スクールソーシャルワーカー等専門職の方に相談できる場が重要であるとわかってきました。ボランティアの方が子どもと関わる際、年齢や性別を考慮した関わりが必要になることがあります。身近な地域で実施するフリースペースだからこそ、様々な地元のボランティアの方が関われるようコーディネートする役割が大切です。



縁・共生の場づくり

しくみづくり

ひとづくり・つながりづくり

縁の仲間

施設

① フリースペースカーサ

平成27年3月スタート、毎週火曜、17:30～21:00
中学生2名、小学生3名、未就学児1名が参加

〈協力団体等〉

- ・特別養護老人ホームカーサ月の輪
- ・地域のボランティア(元児童養護施設職員、元保育士、学生等)
- ・龍谷大学公認サークルトワイライトホーム
- ・瀬田北幼稚園
- ・瀬田北小学校
- ・瀬田北中学校
- ・学校と連携・調整するワーカー
- ・幸重社会福祉士事務所
- ・大津市社会福祉協議会



③ フリースペースせせらぎ

平成27年9月スタート、毎週火曜、17:30～20:45
小学生3名が参加

〈協力団体等〉

- ・特別養護老人ホームせせらぎ苑
- ・地域のボランティア、地域の専門職(権利擁護にかかわるソーシャルワーカー、若者支援にかかわる専門職、ケアマネージャー、学童指導員、民生委員・児童委員、学生、市ボランティア協会メンバー等)
- ・甲賀市立甲南第一小学校
- ・甲賀市教育委員会事務局
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・甲賀市生活支援課
- ・甲賀市子ども応援課
- ・甲賀市社会福祉協議会



⑤ フリースペースアイリス

平成28年2月スタート、毎週木曜、17:00～20:00
小学生2名が参加

〈協力団体等〉

- ・特別養護老人ホーム近江舞子しょうぶ苑
- ・地域のボランティア(民生委員・児童委員、施設ボランティア等)
- ・木戸小学校
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・幸重社会福祉士事務所
- ・大津市社会福祉協議会



② フリースペースかなで

平成27年7月スタート、毎週金曜、17:00～20:00
小学生1名、未就学児1名が参加

〈協力団体等〉

- ・小規模多機能居宅介護事業所 時間の奏
- ・地域のボランティア(元保育士等)
- ・株式会社六匠職員
- ・龍谷大学公認サークルトワイライトホーム
- ・瀬田幼稚園
- ・瀬田小学校
- ・学校と連携・調整するワーカー
- ・幸重社会福祉士事務所
- ・大津市社会福祉協議会



④ フリースペースひこねふるさと

平成28年2月スタート、毎週水曜、17:30～20:00
小学生2名が参加

〈協力団体等〉

- ・障害者支援施設ふるさと
- ・地域のボランティア(教員OB、民生委員・児童委員、主任児童委員、学校講師、大学教員、行政職員等)
- ・彦根市立金城小学校
- ・彦根市教育委員会事務局学校教育課学校支援室
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・彦根市子育て支援課
- ・彦根市社会福祉協議会



⑥ フリースペースふじの里なごみの家

平成28年4月スタート、毎週水曜、17:30～20:45
中学生1名、小学生4名が参加

〈協力団体等〉

- ・特別養護老人ホームふじの里なごみの家
- ・地域のボランティア(教員OB、元保育士、民生委員・児童委員、学生、地域おこし協力隊等)
- ・高島市教育委員会事務局学校教育課
- ・高島市立青柳小学校
- ・高島市立安曇川中学校
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・高島市社会福祉課
- ・高島市子ども家庭相談課
- ・高島市社会福祉協議会



⑦ フリースペースさわのそよ風

平成29年1月スタート、毎週金曜、17:30～20:45
中学生3名、小学生3名が参加

〈協力団体等〉

- ・地域密着型小規模特別養護老人ホームさわの風
- ・地域のボランティア(教員OB、学童指導員、民生委員・児童委員、学生、地域おこし協力隊、元保育士等)
- ・高島市立マキノ南小学校
- ・高島市立マキノ東小学校
- ・高島市立マキノ西小学校

- ・高島市立マキノ中学校
- ・NPO法人子育て・子育てサポートきらきらクラブ
- ・高島市教育委員会事務局学校教育課
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・高島市社会福祉課
- ・高島市子ども家庭相談課
- ・高島市社会福祉協議会



episode

各フリースペースの関係者会議等での意見より

フリースペースで出会う地域のボランティアさんと、地域のお店や学校の通学路で出会うことも。子どもたちは喜んで手を振ったり、少し恥ずかしかったり。でも、次にフリースペースで出会った時に「あのとき〇〇にいたやろ～」と嬉しそうに話しかけてくれます。地域の居場所だからこそ、フリースペースの開催日だけでなく地域のなかで自然な出会いがあり、安心感につながります。

最初は「場所を使ってもらうくらいなら…」と始まった施設でも、毎週子どもたちと出会うなかで、回を重ねるにつれて「子どもたちの笑顔がもっと見たい!」と、いろいろなイベント企画が始まりました。施設職員、市社協、スクールソーシャルワーカー皆で相談のもと、毎月たこ焼きパーティーやお花見、お好み焼きづくり、施設の利用者さんも参加される運動会などが開かれ、子どもたちは大喜び。また、家に帰って楽しかったことを報告するなかで、少しずつ家庭内の空気もよくなってきたそうです。

いつも朝なかなか起きることができず学校に行けなかったのですが、週に1回フリースペースに来る中で少しずつ生活習慣が身に付き、朝起きて学校に行けるように。そのことをボランティアの方に報告し、ほめてもらうことで、またがんばることができます。

大事な修学旅行が近づいてきたとき、子どもがきちんと準備をして参加できるように、施設職員、ボランティア、市社協が一丸となって持っていく服を集めたり、一緒に買いに行ったり、フリースペースでかばんに荷物をつめたり。無事に修学旅行に参加することができ、「楽しかった」と話してくれました。

「少しずついいから楽しく生活習慣を身につけてほしい」という子どもたちに関わる大人たちの願い。歯磨きにスポットをあて、子どもたちにそれぞれ歯磨きブラシを用意し、「歯磨きタイム」を設定しました。初めは「いやー」と逃げ回っていた子どもたちでしたが、歯の大切さや病気のことを少しずつ伝えていき、大人も一緒に歯磨きを行うことで、今では「みがくー!」と自分から嬉しそうにできるようになりました。

振り返り会議で、「最初の頃に比べて表情がだいぶ穏やかになったなあ」「妹に注意する時によく手が先に出てしまっていたけど最近は口で言えるようになってきたなあ」そんな変化が話されました。最初は遊びに来る感覚だったのが、最近は宿題も「教えて～」と持って来て、間違いを指摘されても一緒に考えることができるようになりました。

はじめは施設から出される夕食に「なんだこれ!？」と食べるのに抵抗を示していた子どもたち。「これは、小松菜っていうんだよ」とボランティアさんに教えてもらいながら、食べものの名前をたくさん覚えてくれました。今では食べられる量がぐんと増え、旬のものも食べられるようになり、食の大事さを学ぶ貴重な時間になっています。

フリースペースは他分野の施設職員や地域の方等、さまざまな大人がかかわる居場所。子どもの笑顔に皆が勇気づけられ、施設の利用者さんにとっても週一回のかけがえのない楽しみとなる等、そこに集う皆にとって相乗効果のうまれるあたたかな居場所になっています。

緑・共生の場づくり

しくみづくり

ひとつづくり・つながりづくり

緑の仲間

04 県との公私協働事業 子どもたちの社会への架け橋づくり事業

目的

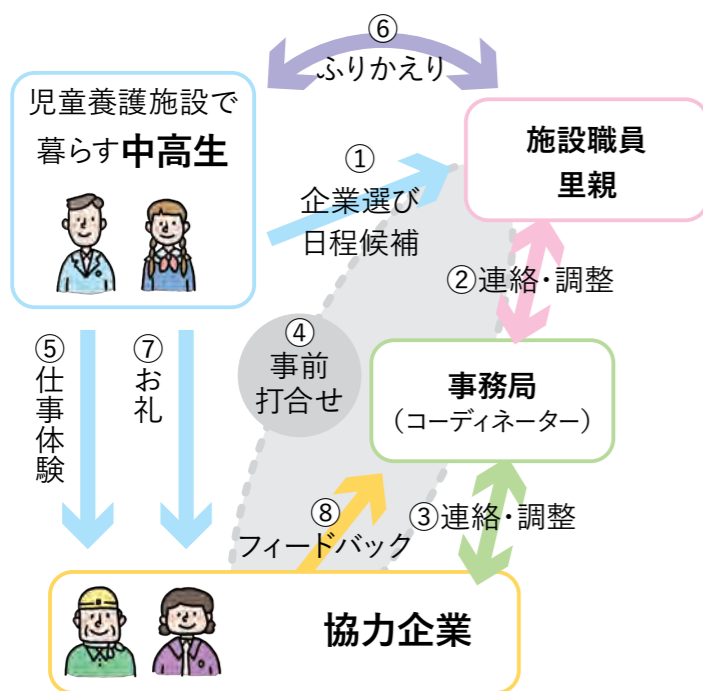
児童養護施設等で暮らす子どもたちの自立を企業・事業所が応援！

滋賀では、約350名の子どもたちがさまざまな理由で親と一緒に暮らすことができず、施設や里親・ファミリーホームで暮らしています。児童養護施設入所児童では、約7割が被虐待児童(県子ども・青少年局調べ)であり、18歳で退所すると、容易に親に頼れない中、一人で自立して社会で生活していくことが迫られます。また、滋賀県児童福祉入所施設協議会調査研究部会の調査によると、自立後、就労しても半年で仕事をやめている、あるいは転職している児童が半数を超えており、同時に住む場所を失うなど、支援を要する児童が多いのが現状です。そこで、早くから職業観を育み、施設や学校以外で信頼できる大人と出会い、それが彼らの土台になると考え「ハローわくわく仕事体験」が動き出しました。これは、中高生が自ら希望する企業のもとで3日程度就労体験を行い、ふりかえりをしながら自信をつけていく取り組み



です。同時に、社会的養護の子どもたちを取り巻く現状について社会に広く正しく知ってもらうための取り組みでもあり、啓発も込めた事業展開を行っています。滋賀の縁創造実践センターのモデル事業として実施してきた「ハローわくわく仕事体験」は、その必要性が認められ、滋賀県の「児童養護施設等で暮らす子どもたちの社会への架け橋づくり事業」として、平成28年度より滋賀県社会福祉協議会に委託されました。

【推進体制】子どもが社会とつながることをみんなで応援



- ① 情報誌のリストを見ながら、施設職員(里親)と相談する。行きたい企業を選んで、日程の候補を挙げる。
- ② 施設職員(里親)一事務局間の連絡・調整。
- ③ 事務局一協力企業間の連絡・調整。
- ④ 施設職員(里親)と事務局、協力企業の3者で事前打ち合わせ(場合によっては本人も同席する)を実施。
- ⑤ 実際に企業に行って仕事を体験する。
- ⑥ 施設職員(里親)と一緒にふりかえり、気付きや思いを次へつなげていく。
- ⑦ 本人から企業宛てにお礼の手紙を書く。
- ⑧ 事務局は協力企業からのフィードバックを受ける。

実践

1 ハローわくわく仕事体験事業

① 中高生の就労体験、小学生の工場・職場見学

中高生の就労体験は、体験を終えて施設等に帰った子どもたちが職員や友だちに話をする中でほかの子どもたちも行ってみたいという子が出てきて、参加者が増えました。特に、夏休みは延べ人数で昨年の2倍の20名が貴重な体験をさせていただきました。

小学生も工場・職場見学をとおして、いろんな職種や仕事に興味を持ち、中高生の就労体験に向けた土台をつくることができました。



中高生の就労体験：延べ47名
小学生の見学：延べ20名

「中高生の仕事体験」

夏休み 3施設、1里親から延べ20名が16企業で体験

(★初体験企業)

No	体験児童	日程	体験先(企業名・事業所名・市・町)	内容等
1	中3・男	7月25~26日	村田自動車工業所(大津市)	自動車の整備(タイヤ交換・ブレーキ分解)、洗車
2	高1・男	7月26~28日	カズテック株式会社(彦根市)★	ほめたつ研修、機械組み立て、部品仕分け、分別ごみ処理
3	高3・男	8月9~11日	カロカ急配(守山市)	トラック同乗、段ボールのピッキング、引越し
4	中2・女	8月1~5日	六匠 時間の奏(大津市)★	高齢者との会話、配膳、レクリエーション、おやつ作り
5	高1・男	8月1~3日	トラットリア・デラ・メーラ(草津市)	朝礼に参加、ホール・キッチン・ビュフェ等
6	中2・男	8月4~6日	琵琶湖乗馬倶楽部(大津市)★	厩舎の清掃、馬の世話は様子を見ながら
7	高2・男	8月10~14日	株式会社 江州(草津市)	朝礼に参加、洗い物、片付け、盛付け
8	中1・男	8月4日	株式会社 和たす(近江八幡市)	商品の梱包、接客等
9	中2・男	8月4・8・18・19日	株式会社 びわ湖タイル(栗東市)★	タイルでキーホルダー作り、現場体験、タイル検定2級挑戦
10	中2・男	8月5・6・8日	株式会社 小杉自工(東近江市)	自動車の板金塗装等
11	中1・女	8月8日延長19日	株式会社 エフアイ(カーブス)(彦根市)	ストレッチをしている利用者へのインタビュー等
12	中1・女	8月11日延長31日	株式会社 エフアイ(カーブス)(彦根市)	ストレッチをしている利用者へのインタビュー等
13	高1・女	8月16日	株式会社 エフアイ(カーブス)(彦根市)	ストレッチをしている利用者へのインタビュー等
14	中2・女	8月4日	株式会社 エッセン(草津市)★	配達業務、事務等
15	中2・女	8月25~27日、9月4日	ニューワーズ 真心(大津市)	高齢者との会話、配膳、風呂介助、レクリエーション、掃除、洗濯
16	中2・男	8月22~23日	宮川パネ工業株式会社(東近江市)★	パネの組み立て、梱包、手動でのパネつくり、事務
17	高2・男	8月20~22日	アオキエージェンシー株式会社(野洲市)★	壁紙の張り替え、荷物の移動、清掃
18	高1・男	8月25~26日	ズイホウ ジュニア カフェ(彦根市)★	フロア担当、食事・メニューの説明、オーダーの対応、配膳
19	高1・男	8月26日	宮川パネ工業株式会社(東近江市)	パネの組み立て・梱包、手動でのパネつくり、事務
20	中1・女	8月25~26日	カズテック株式会社(彦根市)	機械組み立て、清掃・分別ごみ処理

冬休み 2施設、1ファミリーホームから延べ7名が6企業で体験

(★初体験企業)

No	体験児童	日程	体験先(企業名・事業所名・市・町)	内容等
1	高1・男	1月6日	株式会社 シノダ工務店(長浜市)★	新築現場で大工仕事の見学、掃除等
2	中2・男	1月6日	株式会社 シノダ工務店(長浜市)	新築現場で大工仕事の見学、掃除等
3	中1・男	12月26日	株式会社 安土建築工房(近江八幡市)★	新築現場で大工仕事の見学、設計の体験等
4	高1・男	12月26~27日	宮川パネ工業株式会社(東近江市)	パネの組み立て・焼き付け・梱包、ハンコ押し、パンフレット作り
5	高1・男	1月6日	株式会社 小杉自工(東近江市)	車の整備、タイヤ交換、洗車等の見学と手伝い
6	中1・女	1月5~7日	ファットリアたけぼん(彦根市)★	ビニールハウスで苺の収穫、バック詰め、接客、配達
7	高1・男	1月5~7日	株式会社 リネージュ(草津市)★	開店前の準備、材料・用具の洗浄、美容師さんの補助、接待

春休み 3施設、1里親、1ファミリーホームから延べ20名が17企業で体験

「小学生の工場・職場見学」

夏休み 2施設から延べ5名が3企業で体験

(★小学生見学初体験企業)

No	体験児童	日程	体験先(企業名・事業所名・市・町)	内容等
1	小6・男	8月3日	力興木材工業株式会社(米原市)★	重機を使って木材の破碎、チップ製造の見学
2	小5・男	8月10日	株式会社 安土建築工房(近江八幡市)★	西澤社長から家づくりについて講話、工房での見学
3	小5・男	8月10日	株式会社 安土建築工房(近江八幡市)★	西澤社長から家づくりについて講話、工房での見学
4	小6・男	8月25日	宮川パネ工業株式会社(東近江市)★	工場でパネ製造過程の見学
5	小4・男	8月25日	宮川パネ工業株式会社(東近江市)★	工場でパネ製造過程の見学

冬休み 2施設、1里親から延べ6名が3企業で体験

(★小学生見学初体験企業)

No	体験児童	日程	体験先(企業名・事業所名・市・町)	内容等
1	小5・男	11月12日	琵琶湖乗馬倶楽部(大津市)★	厩舎で馬の世話について説明・見学、乗馬の見学
2	小6・男	12月26日	株式会社 村田自動車工業所(大津市)★	車検場、整備工場、修理・板金工場説明・見学
3	小5・男	12月26日	株式会社 村田自動車工業所(大津市)	車検場、整備工場、修理・板金工場説明・見学
4	小5・男	12月26日	株式会社 村田自動車工業所(大津市)	車検場、整備工場、修理・板金工場説明・見学
5	小4・男	1月10日	日本ロジバック株式会社(甲賀市)★	強化段ボールについて説明、輸出用の大型段ボール箱の組み立て体験
6	小4・男	1月10日	日本ロジバック株式会社(甲賀市)	強化段ボールについて説明、輸出用の大型段ボール箱の組み立て体験

春休み 1施設、1ファミリーホームから延べ9名が5企業で体験

② 協力企業・事業所の拡大

要養護の子どもたちについて理解をいただき、就労体験や工場・職場見学を受け入れていただく協力企業・事業所は、3月で96社となりました。

● 企業向け「ハローわくわく」ニュースレターの発行

● 協力企業・事業所との懇談会

「ハローわくわく仕事体験」協力企業・事業所懇談会

日時：平成29年2月13日(月)

会場：クサツエストピアホテル

参加者：

協力企業・事業所関係者(22人)、

滋賀県(子ども・青少年局)・子ども家庭相談センター・

児童養護施設・里親連合会等の関係職員(25人)

合計 47人

[報告]

①「ハローわくわく仕事体験」での取り組みの成果と課題

さざなみ学園：遠城孝幸さん

②体験実施企業の報告

宮川パネ工業：専務取締役 宮川絵理子さん

③体験未実施企業の報告

有限会社 富綜：代表取締役 西村篤志さん

[グループ懇談]



2 就労体験に向けたセミナーの開催

「ハローわくわく仕事体験」の参加に向けて、キャリアアップセミナーとプロフェッショナルセミナーの充実を図りました。子どもたちの参加も増え、特にセミナーを経験した子どもたちから就労体験に参加する子が多くなっています。

① キャリアアップセミナー

今年も子どもたちが、「働く」ことの意味を理解し、世の中にはいろんな職業があることに気づき、子ども自身が自分の将来を具体的に考えるためのセミナーを、講師にNPO法人ブリッジフォースマイルを招き実施しました。

特に、2回目のセミナーは、工場・職場見学、中学や高校での就労体験に参加するきっかけとなるよう、小中学生を中心にした初めての開催となりました。

平成28年6月19日(日) 中学生21人参加

会場 彦根勤労福祉会館

NPO法人ブリッジフォースマイル

「“働く”とおかね&くらしを考えよう」

平成28年12月4日(日) 小中学生26人参加

会場 鹿深の家

NPO法人ブリッジフォースマイル

「仕事を知る～働くってどういうこと?～」



② プロフェッショナルセミナー

「～プロの仕事や生き方をのぞいてみよう～」

協力企業・事業所の代表者から自分の会社の仕事の内容や、仕事のやりがいなどを子どもたちに直接語ってもらうセミナーを、昨年1回でしたが今年は3回に増やしました。子どもたちのセミナーに参加する姿勢も回を重ねるごとに良くなり、プレゼンテーションをしてくださった企業・事業所で就労体験を希望する子どもが多くなりました。

平成28年7月10日(日) 中学生25人参加

会場 滋賀県立男女共同参画センター

・株式会社びわ湖タイル(タイル施工)

代表取締役 中野 光一さん

・有限会社 アップU彦根 代表取締役 上西 信明さん

・宮川パネ工業株式会社(金属パネの製造)

専務取締役 宮川 絵理子さん

・株式会社エフアイ(フィットネス、体操教室)

総務 杉本 有紀さん

・社会福祉法人あいの土山福祉会エーデル土山

介護士 野崎 稀菜さん

・株式会社ピアライフ(不動産業)総務部 中村 重哉さん

・アオキエージェンシー株式会社(内装仕上げ工事業)

代表取締役 青木 広一さん

平成28年11月20日(日) 中学生24人参加

会場 文教ビル

・アオキエージェンシー株式会社(内装仕上げ工事業)

代表取締役 青木 広一さん

・ファットリア たけぼん(農業)代表 武田 和樹さん

・株式会社 六匠(介護事業)取締役 松川 恵さん

・株式会社ピアライフ(不動産業)

賃貸事業部管理課 大川 葵さん

代表取締役 永井 茂一さん

・株式会社シノダ工務店(建設業)代表取締役 篠田 吉行さん

episode

1-① 中学生の就労体験、
小学生の工場・職場見学
里親さんより

将来の夢は「ない」。そう言っていたA君が中学1年生で、はじめて仕事体験に参加しました。私の勧めではありませんでしたが、自分で行きたい職場を選び、丸一日働きました。体験後に彼から出た言葉は「働くことで人は笑顔になる。人は自分とお客さん」。素晴らしいことです。仕事体験を通して、ぼんやりとでも働くこと、将来について学んで欲しい、とのこちらの思いより、もっと大きなことを彼は学んでくれたと思います。

企業・事業所より

受け入れの側の刺激と勉強になっている。子どもたちとともに私たちも育っていきたい。

今後当社雇用のひとつとなるようすすめたい。

2-① キャリアアップセミナー
小学生より

仕事をいっぱい出したとき、こんなにたくさんあるということが分かってとてもすごかったです。

いろいろな仕事がつながっているなんて知らなかったの、すごく良い機会だと思いました。

職員より

こういった会に子どもが参加するのが施設としては初めてであったが、普段とは違う環境の中でいろいろな人と話しができたこと自体が良い経験になったと思う。自分の施設、通っている学校とその交友関係と狭い世界しか知らない子が多いので、そういった観点からも有意義なものになった。



平成29年2月5日(日) 中学生22人参加
会場 草津市立教育研究所

・株式会社エフアイ(フィットネス・体操教室)
総務 杉本 有紀さん

・社会福祉法人 青祥会 特別養護老人ホーム アンタレス
施設長 大河内 昇さん

・株式会社 和た与(和菓子製造販売)

代表取締役 小川 与志和さん

・カズテック株式会社 滋賀製造部

製造部部长 藤野 伸幸さん

・社会福祉法人大津ひかり福祉会 ひかり保育園

保育士 大藪 紀美代さん 松田 明子さん

・株式会社 村田自動車工業所(自動車整備・板金塗装)

代表取締役社長 村田 健二さん

・ニューワンズ株式会社(介護)取締役 野々村 幸雄さん

縁・共生の場づくり

しくみづくり

ひとづくり・つながりづくり

縁の仲間

05 ひきこもりがちな人と家族の支援

目的 ひきこもりがちな人と家族の ココロへのアプローチ

ひきこもらなくてもよい地域づくり

ひきこもりは、本人から相談があることは少なく、まわりからは気づきにくく、気づいても具体的な支援が見つからなかったり、本人にかかわるタイミングが難しかったり、なかなか実際の支援へとつながらないのが現状です。また、ご本人やご家族は誰にも相談できずに孤立していることも少なくありません。そこで、現行の福祉サービスだけでは届けられない支援を届けることを目的に、アウトリーチや居場所づくりを中心にすすめています。さらに、地域社会の関係者がひきこもりの問題を知り、理解を深める活動を通して、何らかの事情で働いていない人びと、所属をもっていない人びとがひきこもらなくてよい社会、人々のまなざしが柔らかい地域社会づくりに取り組んでいます。

実践 甲賀・湖南ひきこもり支援 『奏一かなでー』

ひきこもりやその家族を支援する甲賀モデル事業「甲賀・湖南ひきこもり支援『奏一かなでー』」は縁会員である社会福祉法人さわらび福祉会が主体となり、「誰もが大切にされる地域」を目指し、専門職だけではなく、地域住民からの協力を得て、様々な生きづらさを抱えた方へ歩み寄り、寄り添う支援を継続して行っています。圏域(甲賀市、湖南市)内で呼びかけ、チーム(運営会議)をつくり、取り組みをすすめています。運営会議には、両市の民児協、社協、市役所、甲賀保健所が参画しています。

① 訪問支援(アウトリーチ)の実践

個別支援計画に基づいた訪問支援(アウトリーチ)を行います。自宅への訪問や同行支援により、ゆっくりと関係づくりをしていきます。本人の思いに寄り添いながら、次の一歩を一緒に考えていきます。

② 本人・家族の居場所(奏サロン)づくり

1人ひとりの希望や事情に合わせて、自宅以外で安心して過ごせる場、自分のペースで物事に取り組むことができる場を大切にします。慣れてこれたら、みなさんと交流する機会も考えていきます。



▲奏サロン会場「スポットライフくればす」

滋賀の縁創造実践センター

事務局: 滋賀県社会福祉協議会
「ひきこもり等の支援小委員会」



[モデル事業]

甲賀・湖南ひきこもり支援

『奏一かなでー』

運営主体: 社会福祉法人さわらび福祉会



甲賀・湖南ひきこもり支援

『奏一かなでー』運営会議

構成機関(順不同)

- 甲賀市民生委員児童委員協議会連合会・
- 湖南市民生委員児童委員協議会・
- 甲賀保健所・甲賀市生活支援課・
- 甲賀市障がい福祉課・
- 湖南市住民生活相談室・湖南市健康政策課・
- 湖南市社会福祉課・甲賀市社会福祉協議会・
- 湖南市社会福祉協議会・
- 滋賀の縁創造実践センター事務局・
- さわらび福祉会(事務局)

アウトリーチ・奏サロン部会

家族支援部会

地域啓発・交流部会

③ 家族交流・学習会の開催

家族同士の交流の機会や、各地で取り組まれている実践等を学びあう機会をもちます。また、当事者家族としての立場だけではなく、ご家族自身も「私」でいられる場所づくりを考えます。

甲賀・湖南ひきこもり支援『奏一かなでー』学習会

ひきこもりがちな生活をおくる方のご家族を対象とした学習会を開催。ご家族や関係者あわせて約40名が集いました。「ひきこもりはだれにでもありうること」で、「肯定的な見方をする」「サポーター自身が元気なこと」などのメッセージをみなさんと共有しました。この学習会へ参加したことがきっかけで相談へつながった方もいます。

開催日: 平成28年10月14日(金)

会場: 湖南市立中央まちづくりセンター

内容:

- 講義
「ひきこもりがちな生活の背景を知ることから始める」
講師: 阿星山診療所 医師 本谷 研司氏
- 甲賀・湖南ひきこもり支援『奏一かなでー』や社会資源の情報提供

④ 地域への啓発活動

ひきこもりがちな暮らしをする方の抱える課題やそれに対する支援を、福祉関係機関(者)だけでなく、市民の方に関心をもってもらえるよう、交流会や学習会などに取り組みます。ピアサポート(当事者同士の支え合い)もすすめていきます。

⑤ 県内交流でひきこもりの人と家族と ともに歩む支援活動の縁をひろげる

長浜市では、親の会の「居場所をつくってほしい」という声を受け、長浜市社協が中心となって「えんかふえ」を平成27年4月からスタート。家族の方が多いことが特徴の居場所です。

「ひきこもりがちな方と歩む研修会&家族交流会&えんかふえ」を長浜市社協と滋賀の縁創造実践センターの主催で開催しました。

「えんかふえ」を発信拠点として地域の理解を高めていく取組みや、当事者家族のつながりづくりをしようと、甲賀・湖南ひきこもり支援「奏」の取組みやエピソードに耳を傾けながら自分たちのできることを、やりたいことを出し合う場となりました。

甲賀・湖南ひきこもり支援『奏一かなでー』公開講座 (実践報告会)

奏の取り組みをお伝えしながら、ひきこもりの正しい理解に向けて「ひきこもり」のイメージ転換と、生きづらさを抱えた方へ思いを寄せるきっかけとなるよう奏の利用者、支援者、支援関係者、それぞれの立場から、地域に向けて伝えていきたいことをお話いただきました。

県内各地から当事者家族、支援者、民生委員・児童委員、行政等から200名を超える参加があり、「誰もが大切にされる地域づくり」を考え、今後の新たな動きにつながる機会となりました。

開催日: 平成29年2月22日(水)

場所: 甲南情報交流センター(忍の里プララ)

内容:

- 『奏一かなでー』の取り組みについて
- 奏運営会議メンバーならびに当事者によるリレートーク



episode

関係者会議より

おせっかいかもしい、でもほっとけない。言葉だけでない寄り添い方を縁で学びました。

「子どもがひきこもっていることを知られたくなくて、今までとても言えなかった」と学習会に参加してくれるようになったご家族が話してくれました。地域への啓発活動を丁寧にやってきてよかった、と胸が熱くなりました。

奏は、これまで以上に多機関・多職種との地域の支援者と連携し、方針の検討を丁寧に行っています。この取り組みを通じて、支援者のスキルアップと連携強化が進み、ちょっとした相談がしやすくなりました。

縁 共生の場づくり

しくみづくり

ひとりづくり、つながりづくり

縁の仲間

06 小さな働く場づくり 傍楽(はたらく)体験

目的 生きづらさをかかえている人の「働きたい」を応援!

「働く」ということはとても大事なことです。仕事をして成果をあげれば、ほめられ、人の役に立っていると実感できます。収入を得ることで経済的な自立が得られます。これは人間にとって幸せの大きな要素です。しかし、一般就労を唯一のゴールとすると、それがかなわないために負い目やストレスとなり大きな苦しみを背負う人もあります。

生活困窮者の支援、若者支援、ひとり親支援、障害者支援などさまざまな制度のなかで、いわゆる「就労支援」の事業は整備強化されつつあります。

しかし、障害者手帳がない人や経済的困窮状態にない人等、制度によるサービスの利用対象とならない人や、一般就労まで距離のある人、一般就労をゴールとしない

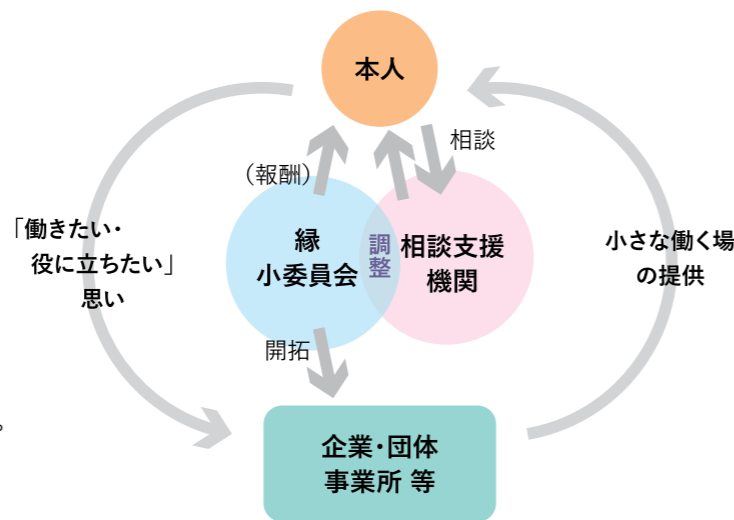
(できない)人は既存の就労支援事業では対応が難しい現状があります。

「傍楽体験」と名付けた小さな働く場は、制度での対応が難しい人たちが、「家から出ていける場所」「社会(誰か)とのつながりを感じられる場所」「働くことの体験をし、少しでも働いた対価を得られる場所」となることをめざしています。

県内のさまざまな地域・事業所と相談支援機関が連携協働して、事業所は「人の応援がほしい」業務を切り出し、相談支援機関を通してやってきた体験者は、その業務をやりとげることを通して人の役に立つ喜び、働いて報酬をもらう喜びを得るといふ、Win-Win(双方良し)の関係をつくっていく取り組みです。

実践

- 1 縁センターの会員事業所で「人の応援がほしい」業務を切り出す。
- 2 連携する相談支援機関・事業所を決め、「傍楽体験」プログラムをつくる。(体験時間の設定や報酬の支払い方法、支援者の関わり方などを相談)
- 3 プレ実施を経て、「傍楽体験」として継続実施。
- 4 支援者へのフィードバック、振り返りを必要に応じて行う。



体験内容

- ・発送物の封筒詰め
- ・車いす等の清掃
- ・啓発資機材の作成
- ・リネンたたみ
- ・網戸の清掃など

[ポイント]

- このような「居場所的働く場」は制度につなぐ入り口にもなる
- この取り組みは業務委託のような大きな形ではなく、社会福祉法人の地域貢献や地域内での産福(産業と福祉)連携、地域の課題解決と結びついた「小さなトライ」としての実施を働きかける
- 「働きたい」ニーズのある人の掘り起こしまで考えるのではなく、あくまで現時点で各相談機関につながっている人に対する場づくりに焦点をあてる
- 「就労」となるとさまざまな縛りが出てくるため、あくまで「体験」として位置付ける

【高島市内で傍楽体験!】

(平成28年6月~)週1回
 場所:社会福祉法人虹の会アイリス第2リネン工場
 参加者:あすくる高島、就労準備支援事業ホップ、障がい者相談支援センターコンパスの相談者
 作業内容:宿泊施設で使用するフェイスタオルやバスマット等を畳む作業
 延べ39名が参加(平成29年2月末現在)



【滋賀県社協で傍楽体験!】

(平成27年11月~)毎月2回程度
 場所:滋賀県社会福祉協議会
 参加者:県地域若者サポートステーション、大津市社協、甲賀市社協の相談者
 作業内容:一斉発送業務、福祉学習用車いすメンテナンス、高齢者疑似体験用器具のメンテナンス、イベント準備等のお手伝い
 延べ129名が参加(平成29年2月末現在)



【滋賀県社会就労事業振興センターで傍楽体験!】

(平成28年5月)1回実施
 場所:滋賀県社会就労事業振興センター
 参加者:県地域若者サポートステーションの相談者
 作業内容:発送業務 延べ4名が参加

【滋賀県介護福祉士会で傍楽体験!】

【滋賀県社会福祉士会で傍楽体験!】
 (平成29年4月~)開始予定

episode

利用者より

久しぶりに緊張感を持ちました。何気なく家でやっていることと職業として仕事をするの大変さ、厳しさなど、改めて実感した一日でした。次回は今日より進歩して効率よくがんばりたいです。

ノルマがなく自分のペースで良いと言ってもらえて助かりました。

満員電車でも問題なく来ることができ、周りを気にしすぎずに作業ができた。2時間は集中することができることを確認できた。

参加してみてやはりチームワークが大切なことだと感じた。社会に出てもチームワークが必要となるので、その第一歩を歩みだせれば良いと思う。次も参加したい。

受け入れ事業所の職員より
 郵便物を受け取る相手のことを考えて、ひとつひとつ心を込めて丁寧に封入作業に取り組みされる参加者の方の姿は頼りがいがあると同時に、本来仕事とは、「相手を思い、傍を楽にする」、そういう気持ちで取り組むものだな、と職員一同大切なことに気付くことになりました。

相談支援機関職員より
 体験を通して、10名の方が就労につながりました。このように、体験を積み重ねることで次のステップに行けるきっかけを得ることもあります。また、本人にとって体験メニューが合わない場合も当然ありますが、それもご本人の希望や課題、その方らしく輝ける道を見つける一助になると思っています。傍楽体験メニューが増えると、さまざまな方たちの可能性が広がりますね。

縁・共生の場づくり

しくみづくり

ひとりづくり・つながりづくり

縁の仲間

07 医療的ケアの必要な重度障害児者の入浴支援

目的

住民を支える専門職の思いは制度を超える

家族の重い負担なしに“湯ぶねでゆったり”を保障したい

医療的ケアを必要とする重度障害児者の家族がもっとも負担感を持っているケアが入浴です。あったかいお湯につかってゆったりとし、からだが清潔になるお風呂は、重い障害がある人ももちろん大好きなことを家族も承知しているので、なんとかして入浴回数を増やしてあげたいと思っています。しかし、現実には体の成長や変形、家族の体力の低下などにより自宅の風呂で入浴するのは困難になってきます。

そこで福祉サービスを利用して入浴をすることになりますが、自宅風呂の利用が困難になると居宅介護や訪問看護を利用して“湯ぶねでゆったり”はかないません。代替となる訪問入浴サービスも利用回数が週2～3回までと自治体による制限があります。自宅外で、家族の負担がなくゆったりと入浴できるサービスをつくり、1回でも入浴できる日を増やしたいと考えました。

ありがたいことに、機械浴の設備がある特別養護老人ホームや高齢者のデイサービスセンターから設備貸出の申し出が次々とあり、身近な地域の高齢者施設のお風呂で障害のある人が入浴する方式が生まれました。



そのためには家族の代わりに医療的ケアをする看護サービスの創設が必要となる

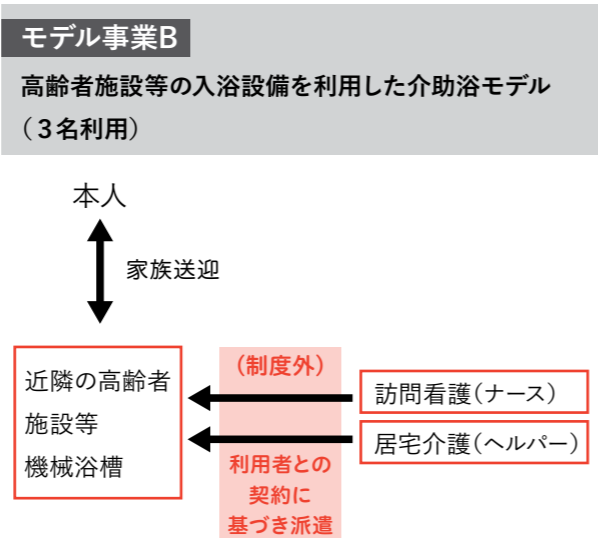
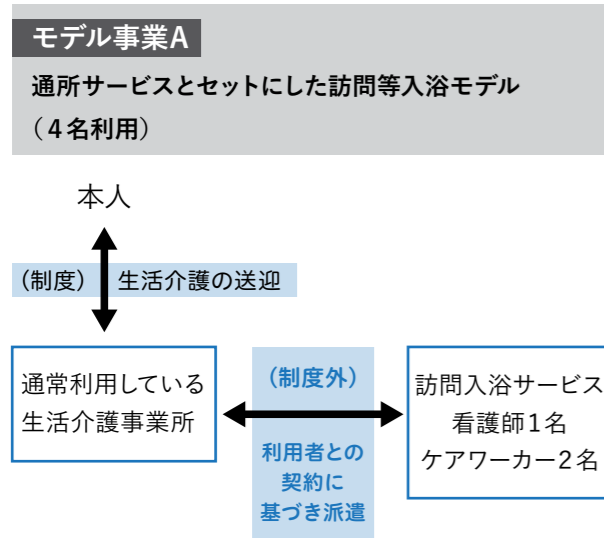
現行の訪問看護サービスは居宅外への訪問は認められていません。「2時間続けて寝られたことがない」生活を何年も続けておられる家族のためにも、また重い障害のある人の社会生活を広げるためにも、看護師が社会生活の場で専門ケアを提供できる制度が整備されることをめざしてモデル実践に取り組んでいます。

社会経験、人との出会いがうれしい

だれにとっても人とのふれあいはとてもすてきなことです。この入浴サービスでも、身近な地域の高齢者施設での週1回の入浴をとおして、障害のある本人にとっても、家族にとっても、地域の人とのつながりが豊かになることも大切にしています。

実践

昨年度に引き続き、訪問入浴事業所、通所事業所、訪問看護事業所、居宅介護事業所、そして入浴設備をもつ地域の高齢者施設の協力を得て、二つの方式でモデル事業を実施しています。



モデル事業A 利用している通所事業所で訪問入浴

年齢・性別	市町	サービス事業所	相談支援事業所	備考
19歳男性	草津市	びわこ学園ピアーズ アサヒサンクリーン	ほっとココ	平成27年4月～
29歳女性	草津市	びわこ学園ピアーズ アサヒサンクリーン	ほっとココ	平成27年4月～
19歳男性	湖南省	びわこ学園さんさん アサヒサンクリーン	甲賀地域ネット相談サポートセンター	平成28年9月～12月
		びわこ学園さんさん ヘルプステーションちょこれーと。 訪問看護ステーションちょこれーと。	甲賀地域ネット相談サポートセンター	平成29年1月～ 方法変更
23歳男性	湖南省	びわこ学園さんさん アサヒサンクリーン	甲賀地域ネット相談サポートセンター	平成28年9月～12月
		びわこ学園さんさん ヘルプステーションちょこれーと。 訪問看護ステーションちょこれーと。	甲賀地域ネット相談サポートセンター	平成29年1月～ 方法変更

モデル事業B 自宅近隣の高齢者施設で入浴

年齢・性別	24歳男性	11歳女性	10歳女性
市町	大津市	東近江市	日野町
高齢者施設	(特養)カーサ月の輪	県看護協会 在宅ケアセンターみのり	(特養)誉の松
介護	スマイルケア	県看護協会 訪問看護ステーション	日野町社協ひだまり
看護	Nアート訪問看護ステーション	県看護協会 訪問看護ステーション	訪問看護ステーションひの
相談支援事業所	やまびこ	くすのき	れいんぼう
備考	平成27年12月～	平成28年4月～	平成27年12月～

episode

この課題は同じ支援にかかわる人にとっても課題に違いないし、「こんな支援があったらいいね」と常々話していたことがこうして分野を越えた協働により実際に動き出して、いやーやってきてよかったですね。実際に事業が動き出すと、障害者福祉の課題解決のために高齢者施設から多くの協力の手が挙がり、制度では自宅にしか行けない訪問看護も、もっと自分たちの持っている力を活用してほしいとその枠を越えて協力してくださいました。このように立場や言語が違う中で分野を越えた協働を進めいくためには、お互いの専門性や視点、

大切にしていることについて丁寧にすりあわせていかないといけないと改めて強く感じています。支援者一人ひとりがそれぞれの分野で専門性を高め、極めていくことももちろん大切ですが、協働においては自分たちの高めた専門性という殻から飛び出して、まずはみんなと「目線を合わせよう!」という態度や工夫が必要になるんだなど。それができなかったら、ほんまもの専門家の力が発揮できないのではないかと。この気づきは私にとっては大事な成果のひとつです。相談支援専門員 増野隼人さん (社会福祉法人びわこ学園)

入浴について学び、考えるフォーラム
～医療的ケアの必要な重度障害児者の入浴課題の解消に向けて～
開催日:平成29年3月12日(日)
在宅で暮らしを支える医師、高橋昭彦先生(滋賀県出身、宇都宮市のひばりクリニック)の基調講演のあと、当事者家族である土田裕美子さんをはじめ、入浴モデル事業を一緒につくっている方たちが「何が課題で、どうしたら解決していけると考え、どのような実践をしているのか」を現場から発信しました。フォーラム後、参加者から実に多くの声が寄せられました。

縁・共生の場づくり
しくみづくり
ひとづくり・つながりづくり
縁の仲間

08 縁の施策提案

目的

実践の普遍的かつ
継続的なシステムづくり

滋賀県と滋賀の縁創造実践センターは、トータルサポートの福祉システム化、制度の充実と制度外サービスへの取り組み、縁支え合いの県民運動を公私協働により実現するための協定を結んでいます。

この公私協働連携協定に基づき、平成28年8月17日に滋賀県公館にて三日月大造滋賀県知事と懇談の場を設けました。懇談には縁センター役員および、各小委員会リーダーが出席し、小委員会やプロジェクトチームでの実践をふまえてまとめられた、共に生きる社会をつくっていくための、以下の5つの具体的な提案を行いました。



実践

あたたかいまなざしと、一人ひとりの
可能性を育む支援を豊かに

平成28年度

滋賀の縁創造実践センターからの提案

提案1

子どもの笑顔を育む縁ネットの設立

県内に広がる子ども食堂の取り組みを基点とし、企業や団体も地域里親として、食材の提供やボランティアとしての参加などのサポートを行っていくねりをつくっていく。

提案2

基幹型・ひきこもりの人と家族支援センターの創設

多様な「困りごと」をまるごと受け止めるセーフティネットとして、精神保健福祉士や社会福祉士等の専門職や地域の支援調整を行うコーディネーターを配置したセンターを創設する。

提案3

高齢者施設を活用した 中高年障害者の地域の居場所づくり

障害のある人やその家族の社会的孤立を防ぐため、また、介護保険サービスへの円滑な移行、障害福祉サービスとの総合利用の体験的な場とするため、身近な高齢者施設を活用した障害者の居場所事業を創設する。

提案4

医療的ケアの必要な重度障害児者の 入浴サービスの充実・強化

訪問看護師の派遣にかかる報酬体系の見直しに向け、県から国へ政策提案を行うとともに、重度障害児者の入浴支援に協力する福祉施設を県が認証するしくみを創設する。

提案5

「えにし週間」の制定

～「えにしの日」に、ともに取り組みましょう

災害時に支え合い、命を守りあえる地域をつくっていくことの大事さを意識し、真の防災力・減災力向上につながるよう、最も助けを必要とする人々とともに、避難する立場に立った訓練や研修などを集中的に開催する。

09

津久井やまゆり園事件を受けて

「今こそ、この子らを世の光に」

経緯

事件を受けて・・・
縁センターとしてできること

平成28年7月26日、神奈川県相模原市の津久井やまゆり園において、尊い命が奪われ、傷つけられるという許すことのできない重大な事件が起きました。しかし、奪われ、傷つけられたのは障害のある被害者の方たちだけではありません。国民の多くが今回の衝撃的な事件を受け、深い悲しみと憤りを感じ、戸惑いました。

事件が起こり、私たち縁創造実践センターは何のために誰のために活動しているのかを自らに問い直しました。滋賀の福祉の当事者である滋賀の縁創造実践センターとしてできることは、命の素晴らしさと尊厳をまもり、伝えるために、障害当事者、家族・支援者の「不安と悲しみ」の声に耳を傾け、誰もが人としていきいきと、共に暮らせるまちづくりの実践に胸を張って取り組んでいくことであると考えました。



実践

緊急アンケート調査と
ブックレットの作成

平成28年8月15日から31日にかけて、県内の障害福祉サービス事業所の管理者に向けて、緊急アンケート調査を実施しました。そして、アンケート調査にいただいた回答や貴重なメッセージ、公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会から提供いただいた写真を通して障害のある方の「大切なことば、生きいきとした姿、いのちの重さ」を伝えるためのブックレットを作成しました。



『今こそ、この子らを世の光に』

〈発行〉

滋賀の縁創造実践センター
公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会

【調査の概要】

調査対象：県内の障害福祉サービス事業所770事業所
回答事業所数：195事業所

調査項目

- 利用者、家族からの表出
- 福祉の仕事に従事している人やこれらから従事する人につたえたいこと
- 共生社会の構築に向けて事件から感じることにさらにやらねばならないこと 等

episode

支援というだけに留まらず、“まちづくり”、“地域づくり”のためにできることは何か考え、実行していくことも福祉領域で働く人たちの役割だと今回のことから強く感じた。

普通の生活の中で特別でなく障害のある方の生活や権利について考えられる社会になってほしいです。

障がいあるなし関係なく、みんなのなかで暮らして当然だという理解を教育の現場でも必要だと感じる。

今こそ、この人たちのいのちの輝きというものをひとりでも多くの人にみていただきたい。

(ブックレットより抜粋)

縁・共生の場づくり

しくみづくり

ひとづくり・つながりづくり

縁の仲間

10 ひとり親家庭の子育て実態調査

目的 子どもの笑顔を育む コミュニティづくりのための調査事業

滋賀のひとり親家庭子育て実態調査は、平成28年4月から5月にかけて、滋賀県民生委員児童委員協議会連合会と滋賀の縁創造実践センターの共同調査として実施したものです。県内の民生委員・児童委員の方がそれぞれの担当地域にお住まいの母子世帯のお母さんに調査票を届けてくださり、調査票を受け取られたお母さんが一つひとつの質問に丁寧に応えてくださったおかげで、いくつもの大切なことが明らかになってきました。



実践

調査の目的

遊べる・学べる淡海子ども食堂の取り組みをすすめるなかで、相対的貧困の状態にある世帯の割合が5割を超える(全国調査)とされている母子世帯のお母さんや子どもたちの日々の生活の様子、求めておられる支援はどのようなことなのかということについて、当事者の方がたの声をお聞きし、少しでも望んでおられることに沿った活動をしていきたいとの思いから実施したものです。子どものことや生活のことで困りごとがあるお母さんが相談しやすい環境づくりや、必要とされていることに対応した支援活動をつくっていくための基礎資料となる調査です。

調査の対象

20歳未満の子とも同居している母子世帯

調査時期

平成28年4月～5月

調査方法

民生委員・児童委員が担当地域内の母子世帯のうち1世帯を目安に調査票を手渡しで配布しました。回答後の調査票は記入者が直接事務局へ郵送する方法で回収しました。

調査票の回収状況

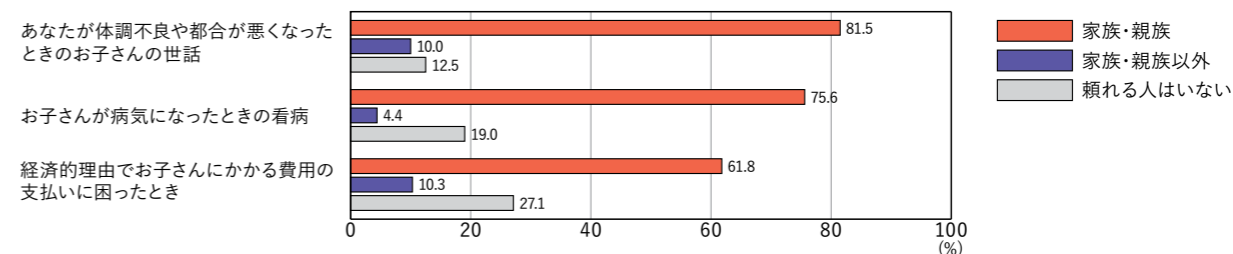
県内の民生委員・児童委員数 3,021人
母子世帯数 12,317世帯
調査票配布数 2,406人 回収数 790人
回収率 32.8%

調査の結果からわかったこと

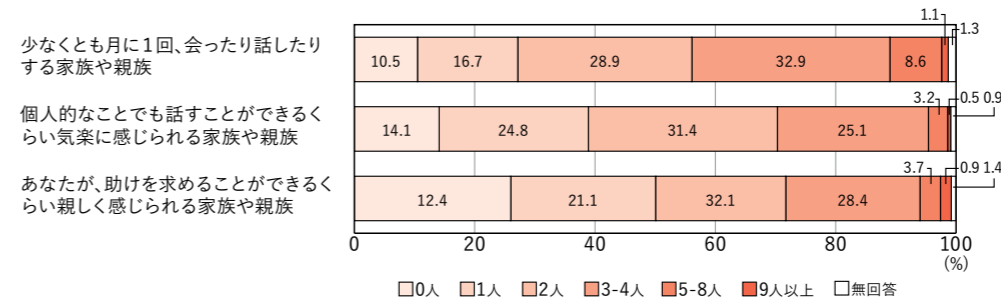
母子世帯のお母さんの姿

- ① ひとりで働き、毎日の生活をやりくりし、そして子どもを育てるということを、身体的にも経済的にもぎりぎりの状態でなんとかまわしておられるお母さんの姿があり、お母さんの健康状態や就労形態が子どもの生活に影響を及ぼしていました。
- ② お母さんが子育ての心配や悩みを相談できる相手や、困ったときや緊急時に頼ることができる相手は家族・親族にはほぼ限定され、母子世帯の生活の安定はお母さん自身の私的ネットワークによって支えられているという状況でした。
- ③ そうした人たちは、日々の生活の様々な場面において社会的なつながりが弱く、生活への満足度も低く、子どもの生活も安定していない状況でした。困った状況が起きたときに頼る人がまったくいない世帯が1割を超えていました。
- ④ お母さんは、相談に費用がかからないこと、仕事等の都合に合わせて相談の時間や方法が選べることとあわせて、相談に応じてくれる相手と同じ境遇にある人や顔見知りであることを望んでいました。
- ⑤ さらに自由記述に書いてくださった多くの大切な声は、家族・親族との同居の有無や収入の多い少ないといった表面的なことで線引きすることなく、まず困りごとをしっかりと受け止めてもらえる場を求めています。

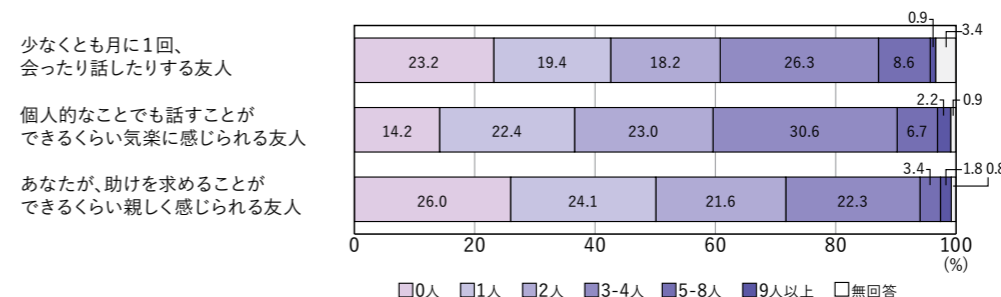
図表1：家庭で困ったとき・緊急時に頼る先



図表2：母の家族や親族とのかかわり



図表3：母の友人とのかかわり(近くに住んでいる人を含む)



これからの目標

お母さんの健康問題への対応、就労支援、そして住宅確保を含む経済的支援が重要な課題であることが明らかになりました。支援のきっかけ(スタート)として、友人・知人といった家族・親族以外の私的なネットワークを広げられる機会を提供することや自分では私的なネットワークを広げづらい人が社会的なサポートにつながる機会を提供することがこれからの取り組みとして必要であると考えています。子ども食堂をはじめとする子どもを地域で育てる活動は、地域の支援者とひとり親世帯の親子が自然なかたちでつながれる、かなり強力な接着剤になれそうです。民生委員・児童委員や子ども食堂のボランティアなど福祉力のある住民支援者の方がたは、お母さんにとっても、子どもにとっても安心の砦のような大切な存在なのだと思います。縁センターは今後の取り組みのなかで、子ども食堂などの子どもを真ん中において地域の人びとがつながり、支え合う場を増やしていくとともに、その活動にかかわってくださっている方がたの研修会などを開催し、住民支援者となってくださる方を増やしていくことを当面の目標として取り組みます。

episode

(報告書より一部抜粋)

今年度からようやく月給の仕事につくことができましたが、それまでは土日子どもをほったらかしにして仕事(バイト)へ行っていました。いつお金がなくなるか、いつ自分の体力がなくなるか、常に不安で毎日とにかく働いていました。でもお金はないので、とにかく食べられるようにだけはがむしゃらでした。資格を取り、仕事が落ち着いたのでようやく少し安心できましたが、本当に暗闇のなかをさまよっているようでした…。

自分の実父母と暮らしていますが、必要なお金を下さいと言うわけにもいかず、でも家自体は田畑など土地もっていて納税額が大きいので公的援助も受けられず、私自身は大変苦しい経済状況です。子どもの進学は大きな悩みで、子どもが学ぶためにお金の心配をしなくていいよう何とかならないかと思います。

仲間についてはP39へ

11 えにしの日(3.11)

目的 災害時に生き抜く力を高める

滋賀の縁創造実践センター、滋賀県災害時要配慮者支援ネットワーク会議、県社会福祉協議会および県は、東日本大震災が発生した3月11日を県民一人ひとりが災害時に命を守るのは日頃からの地域のつながりであり、支え合えるコミュニティがいかに大切であるかを考え、話し合い、心に刻む日にしたいとの思いから、この日を「えにしの日」と定め、えにしの日を含む1週間を「えにし週間」としました。

「えにしの日」には、県内各地でさまざまな団体が、災害時に支援を必要とする人の側に立った訓練や研修を行い、行政の防災計画や避難所運営マニュアルなどを検証し、見直しを提案していきます。これは、一方通行ではない本当に有効な防災の取り組みをつくっていくためのアクションです。

【実施期間】
平成29年3月9日(木)～3月15日(水)「えにし週間」

【主催】
滋賀の縁創造実践センター
滋賀県災害時要配慮者支援ネットワーク会議
滋賀県社会福祉協議会
滋賀県

【取り組み内容】
ユーザー(災害時に困難を抱える人)側の視点で行政の防災計画等を再確認、検証する訓練や研修の実施



▲老人ホームながはまでの福祉避難所運営マニュアル検証訓練の様子

滋賀県災害時要配慮者支援ネットワーク会議とは
災害時における、県域、広域(福祉圏域)、市町域での要配慮者の避難および避難生活について関係者が連携により支援できるように、平常時から県域の支援者および当事者が連携し、協議を行うことで、災害時要配慮者支援対策を推進することを目的として、平成26年3月に設立。現在、72団体で構成しています。

登壇者

- 上村 加代子さん (NPO法人にしはらたんぼぼハウス 施設長)
- 高木 節子さん (滋賀県自閉症協会 事務局代行)
- 清水 明彦さん (社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会 常務理事)
- 渡邊 光春 (滋賀の縁創造実践センター代表理事 滋賀県社会福祉協議会 会長)
- 安田 誠人さん (大谷大学文学部 教授)

実践

第35回 滋賀県社会福祉学会

3月9日「えにしの日」「えにし週間」キックオフ事業として「災害時に生き抜く力」をテーマに開催。熊本地震、そして阪神・淡路大震災の経験から「共に生きる地域づくり」についてお話くださる方がたを招き、滋賀県内の実践者とともに災害とコミュニティ、私たちのための私たちによる取り組みについて学びました。

平成28年度 「えにしの日」・「えにし週間」 取組み一覧

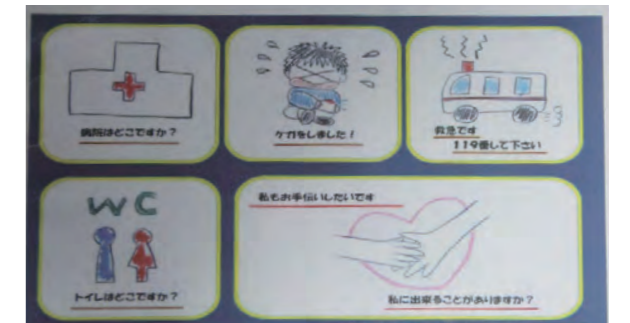
分野	圏域	団体名	実施内容
1 障害	東近江	(特非)しが盲ろう者友の会	消防署の協力による避難訓練
2 障害	湖東	(社福)滋賀県視覚障害者福祉協会	火災避難訓練
3 高齢	湖北	(社福)グロー 老人ホームながはま	福祉避難所運営マニュアル検証訓練
4 高齢	湖北	(社福)グロー 認知症デイサービス さくら番場	利用者と家族の防災勉強会+避難訓練
5 児童	大津	(社福)近江神宮仁愛会 よいこのもり保育園	避難訓練
6 児童	甲賀	(社福)愛心会	保育所・学童合同避難訓練
7 児童	東近江	近江八幡市立 桐原保育所	3施設合同避難訓練
8 地域	東近江	(社福)近江八幡市社会福祉協議会	見守り支え合いをテーマとしたシンポジウム、体験等
9 地域	大津	滋賀県江州音頭協会	災害支援をテーマとした学習会
10 地域	甲賀	市町保健師協議会甲賀支部	災害支援をテーマとした学習会
11 地域	湖東	(社福)彦根市社会福祉協議会	ワークショップ・炊き出し訓練・避難所運営・避難行動訓練



▲彦根市社会福祉協議会による避難行動訓練



▲彦根市社会福祉協議会による避難所運営訓練



▲しが盲ろう者友の会の避難訓練で消防署より提案された点字カードと笛

episode

(特非)しが盲ろう者友の会より
自治会長のお話から災害時の組織体制と避難情報の仕組みが分かり、住居としていない拠点で不安もあったが解消された。また、消防署の方から避難グッズ(救助を求める笛)を頂き、実際に吹いてみる練習を行った。盲ろう者は聞こえないので加減がわからないため、実際にいざというときの行動をして確認しあうことはとても良い練習になったと思う。

滋賀県江州音頭協会より
どんな災害が起きても連携できる考えを皆が持たないといけない。滋賀県ならではの、歴史や文化をふまえた温かみのある取り組みを広げ、助け合おうと全員が気持ちを一つにしました。
(社福)グロー 認知症デイサービス さくら番場より
今後は安否確認のため、利用者のお住まいの避難場所を確認しておく必要があると思った。

(社福)彦根市社会福祉協議会より
炊き出し訓練や避難所運営・避難行動訓練には、小さな子どもたちと保護者、盲導犬・車椅子ユーザー、外国籍住民などたくさんの方に参加いただき、それぞれの生きた声を聞くことができた。これからは自治会などの小さな単位での話し合いや、隣近所での交流の場づくりなどを丁寧を重ねていくことで地域の力を深めていこうという思いを新たにしたい。

(報告書より一部抜粋)

縁・共生の場づくり

しくみづくり

ひとつづくり・つながりづくり

縁の仲間

12 多職種連携のチームづくりを学ぶ 滋賀の縁塾

目的 困っている人を真ん中において、あらゆる分野の専門職が学び合う

滋賀の縁塾は、施設や在宅、多様な専門職の連携が求められるなかで、県内の保健・医療・福祉の支援機関や、ケアの現場で働く人たちに共通して求められる力を高めることを目的に開催しました。

縁センターがめざす滋賀の福祉の在りかたへの理解を深める講義と連動しながら、自職種を省みながら、他職種をどう理解していくか、どのようにすれば困っている人を真ん中におきながら、多職種連携を実現していくことができるのかについて、演習を通じてトレーニングをしていくプログラムです。

それぞれの地域から挙がってきた事例を使用し、他人事ではなく、自分の地域で起こっていることを意識しながらも、それぞれの立場から出てくる意見を受け止めて、オープンに聴いたり話したりすることの大切さを学びます。



実践 圏域7会場で開催し、130名が参加しました

高齢、障害、児童、病院のソーシャルワーカーや行政職員等幅広い支援関係者が参加しました。

演習で取り扱った事例を解決する場ではなく、様々な要因が絡みついて起こっている現状についてそれぞれが課題を分析し、指導者による情報整理と支援の展望を交えた中で、参加者が全員で見解や意見を出し合い、充実感とつながりを密に持つことができました。

講師

- 同志社大学 社会学部 教授
滋賀の縁創造実践センター 副代表理事
上野谷 加代子 先生
- 同志社大学 社会学部 准教授
野村 裕美 先生

圏域7会場：高島会場(高島市新旭町)、甲賀会場(甲賀市水口町)、湖北会場(米原市三吉)、湖東会場(彦根市平田町)、大津会場(大津市におの浜)、湖南会場(草津市笠山)、東近江会場(近江八幡市土田町)

episode

同種の枠を超えた研修、メンバー同士で考え方を共有でき、更に最新の国の動向や資料をいただいて、考え方の幅を広げられました。このようなトレーニングをしていくことで、改めて、自分ひとりでは気付かない着眼点や考え方があったと実感できました。(参加者)

事例を通じての意見交換と、講師の先生の話しが繋がって、研修に一体感があってとても良かったです。「聴く力」、「伝える力」を養えるよう、職場でも共有していきたいです。(参加者)

講義と演習から、分野を越えた横のつながりや多職種連携、専門職として必要な視点を、講師の熱意とともに感じられ、実践に結びつけていく必要性を学ぶことができました。(参加者)

人との対話が一番重要であること、「自分」と「他人」との違いや考え方が違うことを前提において、意見を聴く姿勢が大事だと感じました。'他人事'ではなく、'自分事'として考えて、発信していく力を育てていきたいと思いました。(事例作成協力者)

13 多職種連携のチームづくりを学ぶ 事例検討多職種サロン

目的 「多職種連携」とは、人々がともに何かを創造するプロセス

支援者が抱える困難事例等を題材として事例検討を行うことで、新たな学び・気づき・仲間づくりを促進することを目的としています。「事例検討会」という事例提供者が負担を感じたり進行の方法がわからないために、二の足を踏んでおられることが多いものです。こうした負担感の部分をお手伝いし、できるだけ気軽に身近なところで、事例検討や情報交換を行えるようにしています。縁の取り組みの中で、各支援者から困難ケースについて事例検討したいという声が聞かれ、現場に足を運んで一緒に考えるという「場」の設定の必要性が浮かび上がってきました。そこで、今年度よりこの事業の展開を試みる



こととなり、可能な限り、事業所等に一軒一軒伺い提案をしていきました。開催内容・規模・メンバー・方法は様々で、ミニ講義をはさんだりアドバイザーを交えたり、目的や課題に応じて開催しました。いわゆる出前検討会・出前講座として取り組みを進めています。

実践

- *退所可能利用者の支援と特養の役割を考える(4回開催)
施設長、副施設長、生活相談員、ケアマネージャー、介護主任、担当介護職員等(各回7~9名)
- *脳手術後に後遺症を負った60才代男性の地域生活支援について考える
縁企画員(障害・児童・高島市社協)、地域包括職員、介護支援専門員・生活相談員等(9名)
- *座談会・仕事上の課題や悩みなどの意見交換会
地域包括支援センター職員・高齢者施設相談員及び介護職員・社協職員等(9名)
- *困難事例を通じて情報交換
守山市・栗東市・野洲市・草津市社協の地域福祉権利擁護事業担当者(6名)

- *精神障害のある方の事例検討及び情報交換
守山市・栗東市・野洲市・草津市社協の地域福祉権利擁護事業担当者(7名)
アドバイザー：精神障害者地域生活支援センター「風」黒木 稔氏
- *虐待傾向のある家族への対応と支援
長浜市内地域包括支援センターの保健師・介護支援専門員・社会福祉士等(15名)
アドバイザー：社会福祉士会 村田 才司氏
- *複合的課題を抱える3世代家族の包括的支援
権利擁護支援に関わる福祉専門職等(20名)
アドバイザー：社会福祉士会 村田 才司氏
- *ネグレクト傾向のある高齢者と家族の支援及びミニ講座(家族支援の視点)
長浜市内の介護支援専門員等(20名)
- *高次脳機能障害のある男性の生活支援及び情報交換
守山市・栗東市・野洲市・草津市社協の相談支援担当者、県社協貸付担当者等(8名)

episode

参加者アンケートより
多職種・他機関の方々と共有でき、支援するにあたり大切なことを改めて気づけました。

事例を通じて頭の整理しながら考えていく事が出来ました。

事例検討会の経験は、法人全体が今後の施設のあり方を考えるはずみとなったと思っています。

「支援者も自分の支援者をつくる」この言葉が頭に残りました。

事例を用いて道筋を立てて、皆で考えてひも解くことができ分かりやすかった。

他の方の意見を聞かせて頂け、とてもよかったです。

自分の仕事(現実)なので、よかったです。

縁・共生の場づくり

しくみづくり

ひとりづくり・つながりづくり

縁の仲間

14 ふくしの仕事と楽しく生きる ふく・楽café～縁～

目的 みんなでつくろう、未来のふくし

福祉を学んでいる学生と職員の語り場

「先輩たちは、どうして福祉の仕事に就こうと思ったのかな？」
「福祉の仕事って、給料のわりにハードで結婚や子ども、マイホームは無理なんちゃう？」
「どの分野に行けばいいか、正直悩んでいます……」
気にはなっていないがなかなか聞く機会のない、福祉の先輩の“本音”の話。この事業では現在福祉を学んでいる学生が各分野の福祉職員と出会い、その仕事や生き方に触れることで「福祉の仕事と楽しく生きること」を感じてもらいたいとの思いから、ゆるやかながらもあたたかい雰囲気大切に開催しています。



実践

第1回 平成28年6月19日(日)

場所: ひこね燦ばれす 5名の学生が参加

- 高齢分野 柿町 仁美氏 (ほのぼのデイサービスセンター西浅井)
- 障害分野 増野 隼人氏(びわこ学園)
- 子ども分野 藤村 めぐみ氏(めぐみ保育園)
- 社協 西村 一真氏(甲良町社会福祉協議会)
- 医療分野 藤井 愛氏(訪問看護ステーションふれんず)

第2回 平成29年2月3日(金)

場所: 龍谷大学 15名の学生が参加

(協力: 龍谷大学社会学部現代福祉学科)

- 高齢分野 桑山 茜氏 (特別養護老人ホームせせらぎ苑)
- 山本 幹太郎氏 (甲賀市信楽地域包括支援センター)
- 障害分野 坂田 綾子氏 (東近江地域障害者生活支援センター れいんぼう)
- 子ども分野 樋永 信宏氏 (大津・高島子ども家庭相談センター)
- 社協 山本 重夫氏(日野町社会福祉協議会)
- NPO法人 岩原 勇氣氏(NPO法人BRAH=art.)

episode

ゲストスピーチより
～職員からのメッセージ～

学生時代の実習で高齢者の方たちの笑顔を引き出す仕事に強く惹かれ、夢だった特別養護老人ホームに就職。家に帰れば2児の母ですが、理解ある職場のおかげで楽しく仕事を続けられています★

九州から龍谷大学に進学し、そのまま滋賀で就職・結婚・出産。滋賀のあたたかい空気が大好きです。

なかなか自分の思いを言えない利用者さんがどういう風に思っているのかをまわりが考え、みんなで協力しながら実現していく、そういう仕事ってなかなかいいなと思っています。

参加学生より

昨年のここでの出会いで視野やつながりがひろがり、無事に福祉職場での就職が決まりましたので報告に来ました!これからもよろしくお祈りします。

体験談等も話していただき、とてもわかりやすかったです。来てよかったです。

もうすぐ実習が始まるので不安を払拭したくて来ました。元気を頂きました!また来年報告に来ます。

仲間についてはP39へ

15 福こい♡縁結び

目的 “滋賀の縁”があるから出会える人がいる～独身男女の縁結び

新たな出会いは、元気の源

“滋賀の縁”というつながりが生まれたことで、これまでは分野や所属が違うためなかなか顔を合わせる機会がなかった職員同士も、出会い、語り合う機会が増えました。この機会を皆さんが公私にわたってさらに充実し、元気になる基盤として活かすべく、縁センター会員団体・法人に勤務する独身男女の出会いの場づくりを通して、職員の幸せづくりから仕事への意欲向上と地域活性化を図ります。

実践

『福こい♡縁結びアイデア募集』

平成28年5月、これまで過去4回にわたって実施してきた本事業のさらなる充実をめざして、会員団体・法人に勤務する皆さんにアイデア募集を行いました。35通の回答の結果、多かった意見は下記のとおりとなりました。

- 【1位】BBQ・キャンプ 10票
- 【2位】料理やモノづくり 6票
- 【3位】ハイキング 5票

「秋こい♡えにしBBQ」

平成28年9月19日(祝・月)、滋賀農業公園ブルーメの丘(日野町)にて、BBQや巨大迷路等を通して親睦を深めました。男性9名、女性9名から3組のカップルが成立。

「沖島へGO★春こい♡びわ湖縁結び」

平成29年3月12日(日)、沖島(近江八幡市)の自然や文化、島の人々の暮らしにふれるひとときを通して交流。男性7名、女性6名から4組のカップルが成立。

episode

共同作業だったから話やすく、みんなでワイワイ楽しく過ごせました。(30代男性)



昨年のこちらのイベントがご縁でお付き合いが始まり、1年がたちました。素敵な出会いをありがとうございました♡(20代女性)

仲間についてはP39へ

16 縁・支え合いの県民運動

目的 新たに福祉のボランティア体験をする人を1万人に広げる

滋賀県ボランティアセンターにおいて実施

つながりと助けあいが豊かな滋賀の県民性を生かし、県民それぞれのくらしの場から芽生えてくる「放っておけない」の気持ちが行動に移っていけるよう、県ボランティアセンターが市町社協と協働しながら、会員施設の協力を得て、福祉ボランティアを体験できる場をつくり、広げていきました。

実践 福祉ボランティア体験プログラムの開発・試行・検証

- 1 施設・社協ボランティアコーディネーターセミナー
- 2 ボランティア体験プロジェクト会議の立ち上げ
- 3 ボランティアプログラムの開発
- 4 ボランティア体験プログラムの試行(3施設)
- 5 プログラムの検証
- 6 ボランティア体験情報誌の発行(平成29年6月予定)

【ボランティア体験】 目標:10,000人

福祉のボランティア体験をした人 合計 8,900人

- 1 県ボランティアセンターボランティア体験事業(26年度～) 3,000人
- 2 遊べる・学べる淡海子ども食堂ボランティア 1,000人
- 3 レイカディアえにしの会 100人
- 4 レイカディア大学サポート隊 200人
- 5 レイカディア大学ボランティアの日(26年度～) 600人
- 6 教職員免許取得者のための介護等体験(26年度～) 3,000人
- 7 災害ボランティア(26年度～) 300人
- 8 「えにしの日」訓練等への参加 12団体 700人

【レイカディアえにしの会 発足】

滋賀県レイカディア大学(地域活動のリーダー養成を目的とした60歳以上の方の大学)の卒業生と在校生が地域で行っているボランティア活動をネットワーク化し、活動することを目的とし、平成28年8月に発足。「この子らを世の光に～子ども食堂全国交流会inしが」で体験コーナーの実施、ボランティア体験プログラムの企画実践に参加する等、精力的な活動を展開しています。



▲ケアハウスで子育て中のお母さんと赤ちゃんがボランティア体験。年の差92才!



▲保育園でシニア世代がボランティア体験。園児の発表とシニアのスキルを活かした講演で交流。

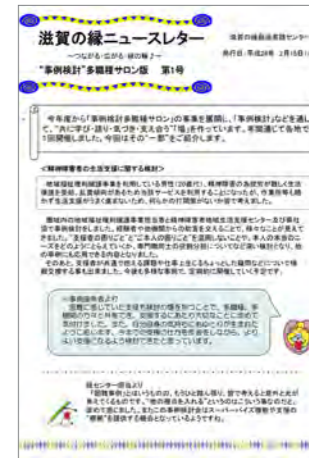
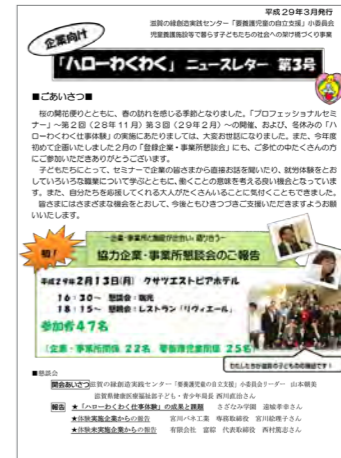


▲「この子らを世の光に～子ども食堂全国交流会inしが」(2月10日開催※P09参照)内のプログラム「子ども大交流会」における、レイカディアえにしの会によるクラフト体験コーナーの様子。参加した子どもたちはもちろん、子ども食堂での「遊べる・学べる」プログラムの参考になったと、大人にも大変好評でした。

17 広報活動

縁センターの取り組みは、さらに豊かで広がりのある実践となるように随時進捗状況を下記によりお知らせしています。ぜひ手にとってご覧ください!

ニュースレター・情報誌



えにし通信

年4回発行!フルカラーの地域づくりマガジン



vol.7

傍にいる人を楽にすることが、次の一歩につながる。「傍楽体験」



vol.8

～私らしく、あなたらしく～
甲賀・湖南ひきこもり支援
『奏一かなで』



vol.9

制度のはざまへのアプローチ
実践者の皆さんにインタビュー!

ホームページ

<http://www.shiga-enishi.jp>

平成29年、一部リニューアル!
スマートフォンからもご覧いただけます。

facebook

<http://www.facebook.com/shiganoenishi>

皆さんの「いいね!」お待ちしております。

このほか、新聞やテレビ等の各メディアでも取り上げられています。

縁・共生の場づくり
しくみづくり
ひとりづくり・つながりづくり
縁の仲間

18 縁の志を共有し実践する仲間

P04-05 01 滋賀の縁認証事業

認証委員会

藤本 武司	滋賀県健康医療福祉部 部長	崎山 美智子	公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会 理事長／縁センター 理事
森井 一夫	滋賀県健康福祉政策課 課長	小林 江里子	滋賀県民生委員児童委員協議会連合会 副会長
市川 忠稔	滋賀県障害福祉課 課長	山田 容	龍谷大学社会学部 准教授 ／縁センター 理事
大岡 紳浩	滋賀県子ども・青少年局 副局長	渡邊 光春	滋賀県社会福祉協議会 会長
岡野 和薫	滋賀県医療福祉推進課 課長	奥山 光一	滋賀県社会福祉協議会 常務理事・事務局長
桐畑 弘嗣	滋賀県市町社会福祉協議会 会長 ／縁センター 副代表理事		

P06-09 02 遊べる・学べる淡海子ども食堂

遊べる・学べる淡海子ども食堂 プロジェクトチーム

中村 静代	米原市社会福祉協議会 事務局長
安武 邦治	社会福祉法人グロー 法人本部 福祉事業部事業第二課 課長
髭 真歩	社会福祉法人グロー 法人本部 福祉事業部事業第二課 主事
飯沼 昭男	滋賀県民生委員児童委員協議会連合会 理事
杉本 良子	滋賀県民生委員児童委員協議会連合会 理事
小倉 稀唯子	社会福祉法人真盛園 地域交流センター老いも若きも コーディネーター
八坂 麻美	高島市社会福祉協議会 子どものあしたコーディネーター
本間 由樹	栗東市社会福祉協議会 業務主任
井上 千紗登	湖南市社会福祉協議会 主事
今里 美香	大津市社会福祉協議会 主事
幸重 忠孝	こどもソーシャルワークセンター 代表
福島 功	滋賀県子ども・青少年局 副主幹

P10-13 03 社会福祉施設を利用した子どもの夜の居場所 フリースペース

居場所づくり小委員会

日比 晴久	特別養護老人ホームカーサ月の輪 施設長	遠藤 貴美代	草津市立笠縫東こども園
安武 邦治	社会福祉法人グロー 法人本部 福祉事業部事業第二課 課長	崎山 美智子	公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会 理事長
青根 真理子	滋賀県健康福祉政策課 課長補佐	市川 忠稔	滋賀県障害福祉課 課長
田中 雄一	米原市社会福祉協議会 地域福祉課長	中洩 昌弘	滋賀県医療福祉推進課介護保険室 室長補佐
澤 和記	特別養護老人ホームふじの里 なごみの家 施設長	鹿取 博貴	滋賀県教育委員会事務局 幼小中教育課指導主事
中沼 孝博	グループホームみなくち 施設長		
吉田 京子	特別養護老人ホームけやきの杜 介護支援専門員		

P14-17 04 県との公私協働事業 子どもたちの社会への架け橋づくり事業

要養護児童の自立支援小委員会

山本 朝美	滋賀県児童福祉入所施設協議会 理事
北川 肇	滋賀県子ども・青少年局 副参事
宮木 博子	滋賀県子ども・青少年局主査
元藤 大士	滋賀県里親連合会 会長 *平成28年10月逝去
杉山 真智子	NPO法人四つ葉のクローバー 理事長
破瀬 勝	社会福祉法人さざなみ学園 次長
佐藤 章	大津市社会福祉協議会 次長

ハローわくわく仕事体験推進委員会

山本 朝美	児童養護施設 小鳩の家 施設長
廣瀬 直子	こばと子ども家庭支援センター 相談員
五十嵐 仁美	児童養護施設 守山学園 主任指導員
牧田 愛	児童養護施設 湘南学園 主任
石田 一樹	児童養護施設 鹿深の家 主任
遠城 孝幸	社会福祉法人さざなみ学園 副主任ケアワーカー
廣田 敬史	自立援助ホーム BiTS-Unit 代表

ハローわくわく仕事体験 協力企業・事業所96社 平成29年3月1日現在

所在地	企業・事業所名
大津	1 (株)村田自動車工業所
	2 (福)せんだん二葉会 せんだん保育園
	3 (株)国華荘びわ湖花街道
	4 (株)ピアラライフ
	5 ニューワンズ(株)
	6 (株)古川与助商店
	7 (有)ロング
	8 (株)六匠
	9 滋賀双葉ビル整備株式会社
	10 (福)真盛園 小規模多機能型居宅介護事業所「良の家」
	11 (福)幸寿会 (特養)カーサ月の輪
	12 (福)大津市社会福祉事業団 (特養)榛原の里
	13 (福)楽樹(特養・デイサービス)湖の花
	14 (福)美輪湖の家大津
	15 (福)小鳩会 小鳩乳児院
	16 (福)大津ひかり福祉会 ひかり保育園
	17 (株)小寺製作所
	18 琵琶湖乗馬倶楽部
彦根	19 ウイングフルカワ
	20 (福)近江ふるさと会 (特養)近江第二ふるさと園
	21 (有)アップU彦根
	22 カズテック(株) 滋賀製造部
	23 ファットリアたけぼん
	24 ズイホウ ジュニア カフェ
	25 ビーチック日夏店(後三条店・長浜店も可)
	長浜
27 (福)まんてん (GH)まんてん塩津	
28 (福)まんてん まんてん小谷	
29 (福)グロー (特養)ふくら	
30 (福)達真会 (特養)けやきの杜	
31 (株)渡辺工業	
32 (株)クローバー	
33 (株)シノダ工務店	
34 (福)青祥会 特別養護老人ホーム アンタレス	
35 (福)青祥会 特別養護老人ホーム 青浄苑	
36 (福)青祥会 介護老人保健施設 長浜メディケアセンター	
37 (福)青祥会 特別養護老人ホーム 青芳	
近江八幡	38 (株)安土建築工房
	39 前出産業(株)
	40 (福)グロー 老人ホーム安土荘
	41 (福)ほのぼの会 グループホームしのだ(扇)
	42 (株)和た与
	43 (福)一善舎 (特養)赤煉瓦の郷
	44 (株)日吉
	草津
46 (福)みのり (特養)ぼぶら・なみき	
47 (株)江州	
48 (株)エッセン	
49 (株)リネージュ	

所在地	企業・事業所名
守山	50 (株)カロカ急配
	51 (福)慈恵会 (特養)ゆいの里
	52 (福)あけぼの会 はすねだこども園
	53 (有)富綜
栗東	54 (有)アイ・エス・エム
	55 (株)びわ湖マイル
	56 (株)エフアイ
	57 きれいや プラスワン
甲賀	58 (福)あいの土山福祉会 (特養)エーデル土山
	59 (福)甲南会 (特養)せせらぎ苑
	60 (有)カーテックウカイ
	61 (株)ティグ水口
	62 日本ロジパック(株)
	63 島本微生物工業株式会社
野洲	64 医療法人 社団 村上整形外科クリニック
	65 公立甲賀病院
	66 (特非)陽だまり
湖南	67 (福)野洲慈恵会 (特養)悠紀の里
	68 東洋産業(株)
	69 アオキエージェンシー(株)
高島	70 (福)近江和順会(特養)ヴィラ十二坊、小規模特養「百伝の杜」
	71 (福)近江ちろば会 ケアハウス ビスガこうせい
東近江	72 (福)ゆたか会 さわの風
	73 (福)ゆたか会 (特養)清風荘
	74 (有)山田保険事務所
	75 (株)プライウッド・オウミ
	76 宮川パネ工業(株)
	77 (株)三省堂
	78 (福)八身福祉会
	79 (有)伊徳織物整理工場
80 メリーポエム洋菓子店	
米原	81 (株)小杉自工
	82 (福)日野友愛会 (特養)沖野原
	83 (株)楠亀工務店
	84 (有)田邊工務店
日野	85 力興木材工業(株)
	86 (福)青祥会 特別養護老人ホーム 坂田青成苑
	87 (福)青祥会 介護老人保健施設 坂田メディケアセンター
愛荘	88 (福)グロー 老人ホームさつき荘
	89 (株)大鋼製作所
	90 さいとう助産院
多賀	91 滋賀建機(株)
	92 酒正(株)
	93 (福)青祥会 デイサービスセンター やまびこ
豊郷	94 油藤商事(株)
	95 (福)湖東会 (特養)いぬかみ
	96 (福)達真会 多賀清流の里

縁 共生の場づくり

しくみづくり

ひとつづくり・つながりづくり

縁の仲間

P18-19 05 ひきこもりがちな人と家族の支援

ひきこもり等の支援小委員会

金子 秀明	社会福祉法人さわらび福祉会 常務理事
北出 篤嗣	社会福祉法人さわらび福祉会 主任相談支援員
丸山 英明	滋賀県障害福祉課 参事
太田 珠美	守山・栗東障害者相談支援センター みらいく 所長
野々村 光子	働き・暮らし応援センター“Tekito-”センター長
八坂 麻美	社会福祉法人高島市社会福祉協議会 子どものあしたコーディネーター
片山 あかり	社会福祉法人長浜市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター
神門 浩	NPO法人 草津市中心身障害児者連絡協議会 センター長

甲賀・湖南ひきこもり支援『奏一かなで』運営会議

金子 秀明	社会福祉法人さわらび福祉会 常務理事	奥野 修司	湖南市社会福祉協議会 生活福祉課 課長
北出 篤嗣	社会福祉法人さわらび福祉会 主任相談支援員	田中 俊之	甲賀市生活支援課 課長
大井 恭子	甲賀保健所 主査(保健師)	山本 明美	甲賀市生活支援課 係長
野中 梓	甲賀保健所 主任保健師	大西 裕紀子	甲賀市障がい福祉課 係長
富岡 正義	甲賀市民生委員児童委員協議会連合会 会長	藤木 亜紀	湖南市市民生活相談室 参事
谷口 優	湖南市民生委員児童委員協議会 会長	古谷 絵美	湖南市健康政策課 保健師
湯次 耕大	甲賀市社会福祉協議会 相談支援課 課長	山崎 秀樹	社会福祉法人さわらび福祉会 スポットライフくればす 所長
大谷 喜久	甲賀市社会福祉協議会 信楽地域福祉活動センター長	安部 恵理	社会福祉法人さわらび福祉会 スポットライフくればす 副所長

P22-23 06 小さな働く場づくり 傍楽(はたらく)体験

生きづらさを抱えた人の働く場づくり小委員会

城 貴志	NPO法人滋賀県社会就労事業振興センター 常務理事兼センター長
眞弓 洋一	東近江市社会福祉協議会 地域福祉課長
北條 裕文	湖北地域しょうがい者相談センターほっとステーション センター長
山下 晏叶子	高島市障がい者相談支援センターコンパス センター長
橋本 隆也	滋賀県労働雇用政策課 参事
山崎 晴美	大津市社会福祉協議会 主事
朽木 弘寿	滋賀県地域若者サポートステーション 総括コーディネーター

協力団体等

滋賀県地域若者サポートステーション、あすくる高島、就労準備支援ホップ、障がい者相談支援センターコンパス、滋賀県社会就労事業振興センター、社会福祉法人虹の会、滋賀県社会福祉協議会

P24-25 07 医療的ケアの必要な重度障害児者の入浴支援

制度の横だし・運用改善小委員会

中島 秀夫	滋賀県障害者自立支援協議会 事務局長
角野 めぐみ	医療福祉・在宅看取り地域創造会議／訪問看護ステーションオーリーブ 所長
中村 恭子	滋賀県医療福祉推進課 副参事
大谷 喜久	甲賀市社会福祉協議会 信楽地域福祉活動センター長
石澤 英明	彦愛犬地域障害者生活支援センター ステップアップ21 次長
廣瀬 由希	社会福祉法人青い鳥会 彦根学園 相談支援員
小林 千鶴	社会福祉法人くすのき会 相談支援事業所くすのき 相談支援専門員
増野 隼人	社会福祉法人びわこ学園 重症児者相談支援センターびわりん 相談支援専門員
平井 真紀	社会福祉法人真寿会 特別養護老人ホーム能登川園 施設福祉課長
山口 俊	社会福祉法人びわこ学園 重症心身障害者通園事業所ピアーズ サービス管理責任者

県内の協力施設 平成29年3月末現在 33施設

【大津市】介護老人福祉施設リバプール、特別養護老人ホーム福寿荘、特別養護老人ホームカーサ月の輪、真盛園デイサービスセンター、特別養護老人ホーム真盛園
 【彦根市】特別養護老人ホームさざなみ苑、彦根市社協南デ イサービスセンター、彦根市社協北デ イサービスセンター
 【長浜市】特別養護老人ホームふくら、伊香の里デ イサービスセンター、特別養護老人ホーム伊香の里、グループホームま なんてん塩津、特別養護老人ホームま なんてん塩津、まごころ ホームま なんてん小谷、特別養護老人ホームけやきの杜
 【近江八幡市】特別養護老人ホーム水茎の里
 【草津市】特別養護老人ホーム風和里
 【守山市】特別養護老人ホームゆいの里

【甲賀市】特別養護老人ホーム甲賀荘、せせらぎ苑デ イサービ スセンター
 【野洲市】デ イセンターさくら
 【湖南市】特別養護老人ホームあぼし
 【高島市】高島市社協さきり新旭、高島市社協さきり今津北
 【東近江市】特別養護老人ホーム沖野原、在宅ケアセンター みのり、特別養護老人ホーム能登川園
 【米原市】デ イサービスセンター愛らんど、デ イサービ スセン ターゆめホール、西部デ イサービ スセンターきらめき
 【日野町】老人ホームさつき荘、特別養護老人ホーム誉の松
 【豊郷町】ステップアップ21

P26-27 10 ひとり親家庭の子育て実態調査

ひとり親家庭の子育て支援に関する調査委員会

山田 容	滋賀の縁創造実践センター 理事／龍谷大学社会学部現代福祉学科 准教授
永田 祐	同志社大学社会学部社会福祉学科 准教授
山本 朝美	児童養護施設小鳩の家 施設長
上村 文子	滋賀県教育委員会スクールソーシャルワーカー
高森 裕子	株式会社三菱総合研究所 主任研究員
上野谷 加代子	滋賀の縁創造実践センター 副代表理事／同志社大学社会学部 教授
谷口 郁美	滋賀県社会福祉協議会 事務局次長／滋賀の縁創造実践センター 所長

協力：滋賀県健康医療福祉部 子ども・青少年局

P31 13 多職種連携のチームづくりを学ぶ 事例検討多職種サロン

近藤 真由子 滋賀県社会福祉士会 調整・進行・ミニ講義等

P32 14 ふくしの仕事と楽しく生きる ふく・楽café～縁～

縁結び・つながりづくり小委員会

小島 健史	社会福祉法人守山市社会福祉協議会 地域支援課長
口村 淳	特別養護老人ホーム淡海荘 係長
高橋 幸子	滋賀県民間社会福祉事業職員共済会 主任
山本 重夫	滋賀県市町社協職員連絡協議会 幹事
寺田 恵美子	カナリヤ第2保育園 園長

仲間たち

龍谷大学社会学部現代福祉学科、龍谷大学ボランティア・NPO活動センター、滋賀文教短期大学、びわこ学院大学、聖泉大学、滋賀大学、滋賀県立大学、Hello Coffee Stand、滋賀県介護・福祉人材センター、福祉を学んでいる学生

P33 15 福こい♡縁結び

縁結び・つながりづくり小委員会

小島 健史	社会福祉法人守山市社会福祉協議会 地域支援課長
口村 淳	特別養護老人ホーム淡海荘 係長
高橋 幸子	滋賀県民間社会福祉事業職員共済会 主任
山本 重夫	滋賀県市町社協職員連絡協議会 幹事
寺田 恵美子	カナリヤ第2保育園 園長

仲間たち

夢こらば、婚活男性専門会話力アップレッスンラフソウル、滋賀農業公園ブルーメの丘、沖島漁業組合、沖島コミュニティセンター、琵琶湖汽船(株)

縁・共生の場づくり
 しゅくみづくり
 ひとりづくり・つながりづくり
 縁の仲間

理事名簿

	氏名	所属
代表理事	前阪 良憲	滋賀県老人福祉施設協議会 会長
	渡邊 光春	社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会 会長
副代表理事	桐畑 弘嗣	滋賀県市町社会福祉協議会会長会 会長
	中西 健	一般社団法人滋賀県保育協議会 会長
	上野谷 加代子	同志社大学大学院 教授
理事	堤 洋三	滋賀県老人福祉施設協議会 副会長
	山本 朝美	滋賀県児童福祉入所施設協議会 理事
	呉屋 之保	滋賀県民生委員児童委員協議会連合会 会長
	澤 和清	公益社団法人滋賀県社会福祉士会 会長
	崎山 美智子	公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会 理事長
	畑下 嘉之	社会福祉法人青祥会 理事長
	黒田 隆	一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会 理事長
	上田 清樹	滋賀県社会福祉法人経営者協議会 副会長
監事	山田 容	龍谷大学社会学部 准教授
	圓城 治男	滋賀県市町社会福祉協議会会長会 前副会長
	藤居 眞	滋賀県老人福祉施設協議会 副会長

企画員名簿

圏域	分野等の区分	企画員名	所属・職名等
県域	地域福祉	中村 静代	(社福)米原市社会福祉協議会 事務局長
	医療福祉	角野 めぐみ	医療福祉・在宅看取り地域創造会議 / 訪問看護ステーションオリーブ 所長
	障害者福祉	中島 秀夫	滋賀県障害者自立支援協議会 事務局長
	障害者福祉	金子 秀明	(社福)さわらび福祉会 常務理事
	障害者福祉	城 貴志	(特非)滋賀県社会就労事業振興センター 常務理事兼センター長
	高齢者福祉	安武 邦治	(社福)グロー 法人本部 福祉事業部事業第二課 課長
	子ども・青少年	山本 朝美	滋賀県児童福祉入所施設協議会理事(小鳩の家・小鳩乳児院施設長)
	子ども・青少年	杉山 真智子	(特非)四つ葉のクローバー 理事長
	子ども・青少年	破瀬 勝	(社福)さざなみ学園 次長
	地域福祉	山本 重夫	滋賀県市町社協職員連絡協議会 幹事(日野町社協)
	地域福祉	青根 真理子	滋賀県健康福祉政策課 課長補佐
	医療福祉	中村 恭子	滋賀県医療福祉推進課 副参事
	障害者福祉	丸山 英明	滋賀県障害福祉課 参事
	子ども・青少年	北川 肇	滋賀県子ども・青少年局 副参事
	子ども・青少年	宮木 博子	滋賀県子ども・青少年局 主査
	教育	鹿取 博貴	滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課指導主事
	労働雇用	橋本 隆也	滋賀県労働雇用政策課就業支援係 参事兼係長
	若者	朽木 弘寿	滋賀県地域若者サポートステーション 総括コーディネーター
	障害者福祉	山口 俊	(社福)びわこ学園重症心身障害者通園事業所ピアーズ サービス管理責任者
	福祉団体	高橋 幸子	一般財団法人滋賀県民間社会福祉事業職員共済会 主任
大津	地域福祉	佐藤 章	(社福)大津市社会福祉協議会 次長
	地域福祉	内田 大	(社福)大津市社会福祉協議会 地域支援グループ 主事
	地域福祉	山崎 晴美	(社福)大津市社会福祉協議会 自立支援グループ 主事
	地域福祉	今里 美香	(社福)大津市社会福祉協議会 地域支援グループ 主事
	高齢者福祉	日比 晴久	特別養護老人ホーム カーサ月の輪 施設長
	子ども・青少年	大西 知子	大津市立唐崎保育園 園長
湖南	地域福祉	小島 健史	(社福)守山市社会福祉協議会 地域支援課 課長
	地域福祉	本間 由樹	(社福)栗東市社会福祉協議会 地域福祉課 業務主任
	高齢者福祉	口村 淳	特別養護老人ホーム淡海荘 係長

圏域	分野等の区分	企画員名	所属・職名等
湖南	障害者福祉	太田 珠美	守山・栗東障害者相談支援センター みらいく 所長
	障害者福祉	増野 隼人	(社福)びわこ学園重症児者相談支援センターびわりん相談支援専門員
	子ども・青少年	寺田 恵美子	カナリヤ第二保育園 園長
甲賀	地域福祉	湯次 耕大	(社福)甲賀市社会福祉協議会 相談支援課 課長
	地域福祉	大谷 喜久	(社福)甲賀市社会福祉協議会 信楽地域福祉活動センター長
	高齢者福祉	中沼 孝博	グループホームみなくち 施設長
	障害者福祉	豊島 左智男	一般社団法人水口病院 地域連携室長補佐
	子ども・青少年	野村 孝子	甲賀市立水口西保育園 園長
東近江	地域福祉	眞弓 洋一	(社福)東近江市社会福祉協議会 地域福祉課 課長
	高齢者福祉	平井 真紀	特別養護老人ホーム能登川園 施設福祉課長
	障害者福祉	野々村 光子	東近江圏域 働き・暮らし応援センター”Tekito-”センター長
	障害者福祉	小林 千鶴	相談支援事業所くすのき 相談支援専門員
	子ども・青少年	秋道 潤子	日野町立保育園あおぞら園 園長
湖東	地域福祉	森 恵生	(社福)彦根市社会福祉協議会 地域福祉課 課長
	障害者福祉	石澤 英明	彦愛犬地域障害者生活支援センターステップアップ21 次長
	障害者福祉	廣瀬 由希	彦根学園 相談支援員
	子ども・青少年	奥村 晃子	甲良町立甲良第二保育園 園長
湖北	地域福祉	山岡 伸次	(社福)長浜市社会福祉協議会 地域福祉課地域福祉コーディネーター
	地域福祉	田中 雄一	(社福)米原市社会福祉協議会 地域福祉課 課長
	高齢者福祉	吉田 京子	特別養護老人ホームけやきの杜 介護支援専門員
	障害者福祉	北條 裕文	湖北地域しょうがい者相談センターほっとステーション センター長
	子ども・青少年	和田 とも子	米原市立かなん認定こども園 園長
高島	地域福祉	河野 みゆき	(社福)高島市社会福祉協議会 地域福祉課 課長
	地域福祉	西野 一道	(社福)高島市社会福祉協議会 地域福祉課 つながり応援センター「よろず」就労支援員
	高齢者福祉	澤 和記	特別養護老人ホーム ふじの里なごみの家 施設長
	障害者福祉	山下 晏叶子	高島市障がい者相談支援センターコンパス センター長
	子ども・青少年	大塚 始	高島市立マキノ東こども園 園長

推進員名簿

圏域	社協名	推進員名	所属・職名等
大津	大津市社協	佐藤 章	次長
	大津市社協	内田 大	地域支援グループ 主事
	大津市社協	山崎 晴美	自立支援グループ 主事
	大津市社協	今里 美香	地域支援グループ 主事
湖南	守山市社協	小島 健史	地域支援課 課長
	栗東市社協	山中 忍恵	地域福祉課 課長
	野洲市社協	木村 恵理	福祉企画課 専門員
甲賀	甲賀市社協	湯次 耕大	相談支援課 課長
	湖南市社協	奥野 修司	生活福祉課 課長
東近江	近江八幡市社協	真鍋 崇	地域福祉課 課長
	東近江市社協	眞弓 洋一	地域福祉課 課長
	日野町社協	武重 英樹	地域福祉課 主査
	竜王町社協	伊藤 哲治	地域福祉推進員
湖東	彦根市社協	森 恵生	地域福祉課 課長
	愛荘町社協	岡村 敦史	地域福祉課 係長
	豊郷町社協	清水 一平	係長
	甲良町社協	西村 一真	主任主事
	多賀町社協	安藤 典子	事務局長
	多賀町社協	小林 楓	地域福祉推進員
湖北	米原市社協	村山 善信	地域福祉課 課長補佐 ボランティアセンター長
	長浜市社協	杉山 好和	地域福祉課 課長
高島	高島市社協	杉島 隆	ふくしのまちづくり推進課 生活支援グループ 係長

縁・共生の場づくり

しくみづくり

ひとづくり・つながりづくり

縁の仲間

滋賀の縁認証事業 認証・奨励を受けた団体の皆さん

滋賀の縁認証事業 認証団体名簿

No	認証団体	年度
1	地域交流センター 老いも若きも	平成27年度
2	マキノ地区ボランティアセンター	平成27年度
	今津地区ボランティアセンター	平成27年度
	朽木地区ボランティアセンター	平成27年度
	安曇川地区ボランティアセンター	平成27年度
	高島地区ボランティアセンター	平成27年度
3	新旭地区ボランティアセンター	平成27年度
3	NPO法人もの忘れカフェの仲間たち「仕事の間」	平成27年度
4	移動商店街 ぎょうれつ本舗	平成27年度
5	社会福祉法人びわこ学園	平成28年度
6	社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～ サービスセンターれがーと	平成28年度
7	社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～ ポーダレスアートミュージアム NO-MA	平成28年度
8	社会福祉法人共生シンフォニー	平成28年度
9	株式会社なんてん共働サービス	平成28年度
10	大野木長寿村まちづくり会社	平成28年度
11	レイカディア大学同窓会・レイカディア大学サポート隊	平成28年度
12	淡海フィランソロピーネット	平成28年度
13	滋賀県自助具製作グループ連絡協議会	平成28年度

滋賀の縁認証事業 奨励団体名簿

No	奨励団体	年度
1	地域交流センター「ななまがり」	平成27年度
2	男性介護者のつどい「中北の家」	平成27年度
3	山中比叡平学区社会福祉協議会	平成28年度
4	八日市に冒険遊び場をつくる会	平成28年度
5	特定非営利活動法人宅老所 心	平成28年度
6	枝折おたすけ隊	平成28年度

子ども食堂実施団体と一緒に取り組みをすすめている方たち一覧

No	食堂名	実施団体	市町
	仲間たち(一緒に取り組みを進めている方たち)		
1	ながはま こども食堂	社会福祉法人グロー	長浜市
2	おいわか子ども食堂「おいで屋」	社会福祉法人真盛園 地域交流センター 老いも若きも	大津市
3	子ども食堂平野学区のぞみ	平野学区母子福祉のぞみ会	大津市
4	晴嵐 みんなの食堂	NPO法人CASN	大津市
5	ゆうあい子どもカレー★食堂	社会福祉法人栗東市社会福祉協議会	栗東市
6	地域交流スペース かりん	NPO法人スペースウィン	守山市
7	ふたば・あすなろ食堂	ふたば・あすなろ学級保護者会	野洲市
8	にぎわい広場	石部南学区まちづくり協議会	湖南市
9	キッズ☆カフェ	長浜おやこ劇場ウイナーサークル	長浜市

No	食堂名	実施団体	市町
10	わか 子ども食堂	任意団体 わっか	米原市
11	湖北子ども食堂「Liaison(リエゾン)」	任意団体 リエゾン	米原市
12	ピースこども食堂	NPO法人スーブル	日野町
13	むさっ子食堂	むさっ子食堂運営委員会	近江八幡市
14	おおのぎ子ども食堂	大野木長寿村まちづくり会社	米原市
15	こどもの居場所「まんま」	北郷里子どもの居場所つくりの会	長浜市
16	八日市おかえり食堂	おてんとさん	東近江市
17	しらゆり子ども食堂	チームしらゆりボランティアの会	大津市
18	子ども食堂R北尾	子ども食堂R北尾	栗東市
19	かめのこ 子ども食堂	特定非営利活動法人Links	彦根市
20	子どもたちの学習支援と居場所づくり inのぞみ食堂	社会福祉法人滋賀県母子福祉のぞみ会	滋賀県
21	出会い食堂♡よっといで♡	若葉町自治会・ピアンネ	大津市
22	日野こども食堂 ひまわりカフェ	日野こども食堂	日野町
23	はちまん 子ども食堂	八幡学区社会福祉協議会	近江八幡市
24	だんらんの家 子ども食堂	(有)管材技研 だんらんの家	草津市
25	寺子屋食堂	一般社団法人こそだてがめっちゃたのしくなる会	日野町
26	多文化子ども食堂	多文化共生支援センター	草津市
27	のぞみ子ども食堂	彦根市母子福祉のぞみ会	彦根市
28	キッズカフェ・エンジェライト	子育てHappyエンジェライト	大津市
29	さわやま♡こどもほっとランチ	さわやま♡ほっとライン	彦根市
30	田上っ子食堂	田上学区青少年育成学区民会議	大津市
31	食育ながはま「元気っ子広場」	食育ながはま元気っ子の会	長浜市
32	スエばあちゃん食堂	スエばあちゃん食堂	近江八幡市
33	子ども食堂「ひよしだい」	日吉台学区社会福祉協議会	大津市
34	ほのちゃん食堂	社会福祉法人ほのぼのの会	近江八幡市
35	かんちゃんの小さな家 ぼちぼち広場 (フィールド)(多文化・地域交流活動)	ホットフィールド子ども・若者支援ヒューマンネット かんちゃんの小さな家	近江八幡市

縁・共生の場づくり
しくみづくり
ひとりづくり・つながりづくり
縁の仲間

No	食堂名	実施団体	市町
	仲間たち(一緒に取り組みを進めている方たち)		
36	ひまわり食堂	ひまわり	守山市
37	ビハーラ子ども食堂 ビハーラ彦根会員、青少年育成協議会会員	ビハーラ彦根	彦根市
38	ひがしっこ食堂	吉身東町自治会	守山市
39	「夢の学習」料理教室 「夢の学習」推進委員、その他ボランティア(高齢者・保護者等)、調理師等有資格者	地域で創る土曜日「夢の学習」推進委員会	甲賀市
40	のびっこ子ども食堂『いしでら』 NPOのびっこクラブを中心にボランティアを募る	NPO法人のびっこクラブ	彦根市
41	きのもと子ども食堂 子ども食堂の取り組みに関心のあるボランティア	きのもと子ども食堂	長浜市
42	きりっ子食堂(桐原東小学校) 運営委員会、ボランティア約30名	きりっ子食堂 運営委員会	近江八幡市
43	栗東BBS 子ども食堂 BBS会員、治田学区更生保護女性会員、保護司	栗東市BBS会	栗東市
44	にじの家サロンこども食堂&寺子屋 しが健康医療生活協同組合 しが健康医療生協職員、生協組合員、医学・看護学生、教育学部等有志のボランティアスタッフ	しが健康医療生活協同組合	栗東市
45	柏木「わいわい教室」 柏木地区地域福祉協議会(民生委員児童委員)、民生委員児童委員OB、ボランティア	柏木地区地域福祉協議会	甲賀市
46	ぱっぱ屋 冒険遊び場 小松プレーパークをつくる会のメンバー	冒険遊び場小松プレーパークをつくる会	大津市
47	ぜげこども食堂 有志および賛同者	ぜげこども食堂運営委員会	大津市
48	膳所子供カレー食堂 事業担当者の家族と児童の親	ZeZeまなびや	大津市
49	ちゅうずこども食堂 CLUB ATTRACTION事務局メンバー、実行委員メンバー	ちゅうずこども食堂実行委員会	野洲市
50	きりっこ食堂(桐原小学校) 運営委員会、ボランティア約30名	きりっこ食堂 運営委員会	近江八幡市
51	子ども食堂「てるてるぼうず」	てるてるぼうず	甲賀市
52	たんぼぼ食堂 新旧主任児童委員を主とした地域のボランティア	伴谷たんぼぼの会	甲賀市
53	あやの(みんなの居場所)子ども食堂 部会スタッフ、料理グループ	綾野自治振興会(綾野学区まちづくり協議会)	甲賀市
54	アモーレ子ども食堂 ボランティア、民生委員、滋賀県青少年課	アモーレ子ども食堂	甲賀市
55	かしわばら子ども食堂(仮称) 柏原保育園職員、地域ボランティア	社会福祉法人柏葉会 柏原保育園	米原市
56	とよくに子ども食堂 子ども食堂の取り組みに関心のある方	とよくに子ども食堂	愛荘町
57	島川ふれあい広場 島川ふれあい広場の取り組みに関心のあるボランティア	島川ふれあい広場	愛荘町
58	子ども食堂 あじと 子育て中のお母さんたち、地域住民	子ども食堂 あじと	東近江市
59	花明かり食堂 保護司の仲間、地域の民生委員・児童委員、主任児童委員、地域の有志ボランティア	花明かり食堂	栗東市
60	子どもカフェ あおぞら	子どもカフェ あおぞら	東近江市
61	eatalk こどもソーシャルワークセンター スタッフ	こどもソーシャルワークセンター	大津市
62	かたばみ食堂 《かたばみ》の会 会員	堅田の子を見守る《かたばみ》の会	大津市

縁・共生の場づくり

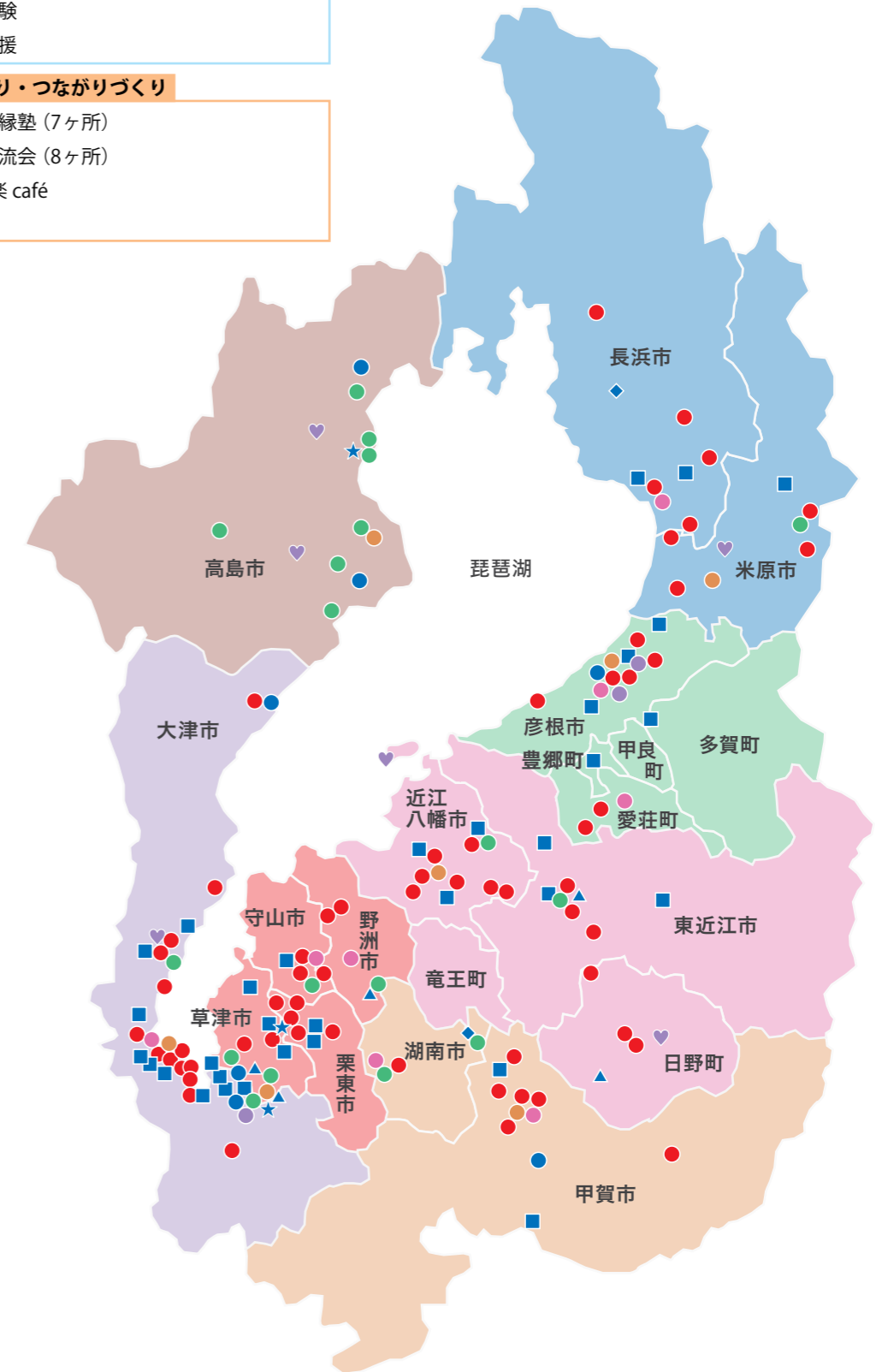
- 滋賀の縁 認証事業 認証団体 (18ヶ所)
- 遊べる・学べる淡海子ども食堂 (62ヶ所)

しくみづくり

- フリースペース
- ハローわくわく仕事体験 実施企業・事業所
- ◆ ひきこもりの人と家族支援
- ★ 傍聴体験
- ▲ 入浴支援

ひとつづくり・つながりづくり

- 滋賀の縁塾 (7ヶ所)
- 圏域交流会 (8ヶ所)
- ふく・楽 café
- ♥ 縁結び



縁・共生の場づくり
しくみづくり
ひとつづくり・つながりづくり
縁の仲間

縁5年間の目標と実践

(平成29年3月31日 現在)

5年間の目標 (縁センター設立:平成26年9月1日)

- 縁・共生の場づくり (300ヶ所)
- 課題解決のためのネットワークづくり (15ヶ所)
- 制度だけで解決できない課題解決のためのモデル事業企画と実施(15事業)
- 国や県、市町への施策提案 (20の提案)
- 縁・支え合いの県民運動
新たに福祉のボランティア体験をする人 (1万人)

1 縁・共生の場づくり

(概ね小学校区に一つ)

- 縁認証 18ヶ所 (13団体)
- 縁奨励 6ヶ所 (6団体)
- 淡海子ども食堂 62ヶ所
- フリースペース 7ヶ所
(しんどさ抱える子どもの夜の居場所)
- 中高年障害者の休日の居場所 1ヶ所
- ひきこもりの人と家族の居場所 1ヶ所
- 傍楽体験の場 3ヶ所

98ヶ所
300ヶ所

2 課題解決のためのネットワークづくり

(概ね福祉事務所単位)

- 大津 (3回:縁塾2、交流会1)
- 湖南 (7回:縁塾2、多職種サロン3、交流会2)
- 甲賀 (5回:縁塾2、交流会3)
- 東近江 (6回:縁塾2、多職種サロン4)
- 湖東 (6回:縁塾2、多職種サロン1、交流会3)
- 湖北 (6回:縁塾2、多職種サロン2、交流会2)
- 高島 (4回:縁塾2、多職種サロン1、交流会1)

15ヶ所
15ヶ所

3 制度だけで解決できない課題解決のためのモデル事業企画と実施

19事業
15事業

- 社会福祉施設を活用したしんどさを抱える子どもの夜の居場所フリースペース<7事業>
 - 特養型5か所
カーサ
アイリス
せせらぎ
なごみの家
さわの風
 - 小規模多機能型1か所(時間の奏)
 - 障害者施設型1か所(ふるさと)
- 高齢者施設を活用した中高年障害者の休日の居場所<1事業>
- 児童養護施設等で暮らす子どもたちの社会への架け橋づくり<5事業>
 - ハローわくわく仕事体験
 - キャリアアップセミナー
 - プロフェッショナルセミナー
 - 企業と施設の懇談会
 - 子どもたちの自立支援応援者のためのハンドブック
- ひきこもりの人と家族の支援<2事業>
 - 甲賀・湖南ひきこもり支援『奏一かなでー』
 - 家族と支援者交流学習会(長浜市、県域)
- 生きづらさを抱える人の働く場づくり「傍楽体験」<2事業>
 - 県社協(湖南)…若者サポステとの協働
 - 虹の会(高島)…市内相談支援機関との協働
- 医療的ケアを要する重度障害者の入浴支援事業<2事業>
 - 通所施設で訪問入浴モデル(草津市)
 - 高齢者施設開放モデル(大津市、東近江市、日野町、野洲市)

4 国、県、市町への施策提案

18提案
20提案

<平成27年春>

“制度のはざま”への公私協働の実践

「子どもの貧困」の解決は、少子化対策・人口減少対策の肝であるとの認識のもと、

- 滋賀県人口ビジョン・総合戦略において、子どもの貧困対策にかかる施策の確実な位置づけを要望
- その上で、「遊べる・学べる淡海子ども食堂」推進事業について、政府が平成28年度に創設する地方創生の新型交付金を活用した事業展開が図れるよう検討を要望

<平成27年秋>

子どもの笑顔を育むコミュニティづくり

◆全員参加型公私協働で進める

「遊べる・学べる淡海子ども食堂」推進事業

- 子どもの笑顔を育む縁ネット設立
- 官民協働による子ども食堂運営支援(立ち上げ支援)
- フードバンクの実施
- 持続的な運営・コミュニティサービス運営の人材育成
- スクールソーシャルワーカー活用事業の拡充
- 子ども食堂事業コーディネーターの配置

◆施設や里親のもとで育つ子どもたちの自立支援事業

◆ひきこもりの人と家族支援センターの開設

<平成28年夏>

◆あたたかいまなざしと、

一人ひとりの可能性を育む支援を豊かに

- 子どもの笑顔を育む縁ネットの設立
- 基幹型・ひきこもりの人と家族支援センターの創設
- 高齢者施設を活用した中高年障害者の地域の居場所づくり
- 医療的ケアに必要な重度障害児者の入浴サービスの充実・強化
- 「えにしの日」「えにし週間」の制定と協働

◆滋賀の子育て家庭調査

(ひとり親家庭の子育て実態調査)

平成28年4月～5月実施

縁センターと

県民生委員児童委員協議会連合会との共同実施

2,406配布、790回答 回収率32.8%

◆“縁”県民運動推進協議会の設置

◆津久井やまゆり園での殺傷事件を受けての緊急アンケート調査

・8月15日～31日

・障害福祉サービス事業所(入所・通所・相談)

770事業所に送付、195回答

5 縁・支え合いの県民運動福祉のボランティア体験をする人

8,900人
10,000人

- 県ボランティアセンターボランティア体験事業(平成26年度～) 3,000人
- 遊べる・学べる淡海子ども食堂ボランティア 1,000人
- レイカディアえにしの会 100人
- レイカディア大学サポート隊 200人
- レイカディア大学ボランティアの日(平成26年度～) 600人
- 教職員免許取得者のための介護等体験(平成26年度～) 3,000人
- 災害ボランティア(平成26年度～) 300人
- 「えにしの日」訓練等への参加 12団体 700人

滋賀の縁創造実践センター 平成28年度の歩み

平成
28
年

4月28日	平成28年度総会、つながり・ひろがる縁フォーラム2016開催 正副代表理事会議にて「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業に6団体が採択 えにし白書2015 発行
5月24日	正副代表理事会議にて「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業に4団体が採択
6月11日	日本地域福祉学会にて地域福祉優秀実践賞受賞
6月19日	第1回 キャリアアップセミナー 第1回「ふく・楽café～縁～」
6月29日	滋賀の縁塾(高島会場)
7月6日	第1弾 子ども食堂開設準備講座(湖東会場)
7月10日	第1回 プロフェッショナルセミナー
7月13日	滋賀の縁塾(甲賀会場) 第1回 子ども食堂交流会
7月27日	正副代表理事会議にて「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業に5団体が採択
8月17日	三日月知事との懇談会
8月22日	地域に子ども食堂をひろげよう!研修会(社協職員向け)
8月23日	滋賀の縁塾(湖北会場)
8月24日	滋賀の縁塾(湖東会場)
9月19日	第1回 福こい♡縁結び「秋こい♡えにしBBQ」
9月20日	第2弾 子ども食堂開設準備講座(甲賀会場)
9月26日	正副代表理事会議にて「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業に7団体が採択
10月13日	第3弾 子ども食堂開設準備講座(湖北会場)
10月25日	第2回 滋賀県社会福祉大会にて、 “滋賀の縁”認証事業 9団体等に認証プレート、4団体等に奨励プレート贈呈
11月20日	第2回 プロフェッショナルセミナー
11月21日	正副代表理事会議にて「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業に6団体が採択
12月4日	第2回 キャリアアップセミナー
12月16日	第4弾 子ども食堂開設準備講座(大津会場)
12月19日	第2回 子ども食堂交流会
12月21日	滋賀の縁塾(大津会場)
12月22日	滋賀の縁塾(湖南会場)
1月13日	「フリースペースさわのそよ風」スタート
1月24日	正副代表理事会議にて「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業に9団体が採択 第5弾 子ども食堂開設準備講座(湖南会場) 滋賀の縁認証事業 認証式
1月26日	滋賀の縁塾(東近江会場)
1月31日	第6弾 子ども食堂開設準備講座(東近江会場)
2月3日	第2回「ふく・楽café～縁～」
2月5日	第3回 プロフェッショナルセミナー
2月10日	この子らを世の光に～子ども食堂全国交流会inしが 共催 (主催:糸賀一雄記念財団)
2月13日	「ハローわくわく仕事体験」協力企業・事業所 懇談会
2月22日	甲賀・湖南ひきこもり支援『奏一かなでー』 実践報告会
3月9日	「えにし週間」スタート(～3月15日) 第35回 滋賀県地域福祉学会(「えにしの日」「えにし週間」キックオフ事業)
3月11日	「えにしの日」
3月12日	入浴について学び、考えるフォーラム 第2回 福こい♡縁結び「沖島へGO★春こい♡びわ湖縁結び」
3月15日	正副代表理事会議にて「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業に11団体が採択 (うち1団体は平成29年度より開始)

平成
29
年

えにし白書 2016

発行:滋賀の縁創造実践センター

平成29年(2017年)4月25日

〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会内

[Tel] 077-569-4650

[Fax] 077-567-5160

[Mail] enishi@shigashakyo.jp

[HP] <http://www.shiga-enishi.jp>

[Facebook] <http://www.facebook.com/shiganoenishi>